令和３年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

頁

令和３（2021）年度の活動から…… 1

Ⅰ　資料収集・保存管理事業…… 3

　1　資料収集…… 3

　2　資料保存管理…… 3

Ⅱ　調査研究事業…… 4

　1　調査研究…… 4

Ⅲ　教育普及事業…… 6

　1　展示…… 6

　2　教育普及活動…… 11

　3　執筆・出版…… 19

　4　広報・宣伝…… 21

　5　大町博物館連絡会…… 22

　6　安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会…… 22

　7　大町山岳博物館友の会…… 22

　8　ライチョウ会議…… 24

　9　長野県山岳総合センターとの連携事業…… 25

Ⅳ　山岳博物館　創立 70 周年記念事業 …… 26

　1　記念式典…… 26

　2　記念講演会…… 26

　3　その他…… 26

Ⅴ　動植物飼育栽培繁殖事業…… 27

　1　動物飼育繁殖…… 25

　2　植物栽培繁殖…… 29

　3　付属園整備…… 29

　4　公益社団法人日本動物園水族館協会…… 30

Ⅵ　その他…… 30

　1　各種委員等の委嘱他…… 30

　2　アルプス動物園との友好提携協定の締結…… 30

　3　信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結…… 31

　4　長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結…… 31

　5　ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結…… 31

　6　梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力 …… 31

Ⅶ　運営…… 32

　1　組織および職員構成…… 32

　2　市立大町山岳博物館協議会…… 32

　3　入館者状況…… 33

　4　令和３年度予算・決算 …… 35

　5　ミュージアムカフェ・ショップ…… 36

Ⅷ　関係条例規則等…… 37

　1　市立大町山岳博物館条例…… 37

　2　市立大町山岳博物館規則…… 39

　3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱…… 41

Ⅸ　市立大町山岳博物館の使命…… 42

　1　市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に…… 42

　2　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念…… 42

　3　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針…… 43

Ⅹ　施設…… 45

　1　敷地面積…… 45

2　本館建物…… 45
3　付属施設…… 46
4　エレベーター改修…… 47
XI　利用案内…… 47

令和３（2021）年度の活動から

館 長　鈴木 啓助

令和２（2020）年１月 15 日に、新型コロナウイルスの感染者が国内で初めて確認され、その後、感染者数の増減は波のように繰り返し、令和２年度は感染者数増加の波が第３波までとなりました。そして、第４波とともに令和３（2021）年度が始まりました。７月下旬からの第５波は 10 月初めまで続き、それに伴い、山岳博物館も９月３日から９月 13 日まで臨時休館となりました。その後、10 月初めから 12 月末までは新規感染者数が少なくなり、収束したかにみえましたが、年明け後には新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るい、大町市でも多くの感染者が確認されるようになりました。

令和３(2021)年度には、これまで懸案となっていたエレベーターが更新されることになりましたが、工事期間中は騒音が発生することと、来館者がエレベーターを使用できないことから、12 月１日から１月 14 日まで臨時休館となりました。いよいよ工事も終わりに近づいた頃から、変異型の新型コロナウイルスによる感染者が多くなったため、３月７日まで引き続き休館となりました。

４月 18 日には、友の会総会記念講演会「大町市にみる岳・野・湖・山」を、講師に矢野孝雄氏をお迎えして開催しました。これは、昨年度に企画されましたが、新型コロナウィルス感染症のための臨時休館により延期されたものです。矢野氏は、令和２（2020）年３月まで、地質分野の専門員として山岳博物館で活躍されていました。「岳・野・湖・山」は、矢野氏の発案により「たけのこやま」と呼び、大町の自然の配置を見事に表現した秀逸なキャッチフレーズです。

４月 24 日から７月 11 日まで、特別展「北アルプスに生きた動物の記録－さんぱく収蔵コレクション－」を開催しました。これは、山岳博物館が収蔵している鳥類・哺乳類・昆虫類などの剥製や標本を展示し紹介するものでした。大町市近郊に生息する動物とはいえ、なかなか実物を見ることのできない来館者の皆様には新鮮だったようです。この特別展の期間中のゴールデン・ウィークには、「付属園まつり」を開催しました。昨年度は中止せざるを得なかったこともあり、多くの皆様にお越しいただき、存分に楽しんでいただきました。

７月 17 日から 11 月 28 日まで、企画展「北アルプスの誕生とそこに息づく高山植物のものがたり―花・果実・種子・芽生え　ときどきふしぎ発見！―」を開催しました。企画展の関連行事として、９月 18 日に富山大学の石井　博氏をお迎えして「花と昆虫　したたかで素敵な関係」と題するさんぱくゼミナールを開催する計画でしたが、新型コロナウィルス感染症のために次年度に延期させていただきました。

山岳博物館は 1951 年 11 月１日に開館しました。2021 年は創立 70 周年に当たりますので、10 月９日に記念講演会を、11 月 20 日に記念式典の開催を、年度当初には企画していました。これまでの記念式典の際には、大町市と友好都市となっているオーストリア・インスブルック市と同市のアルペン動物園の関係者をお招きしておりましたが、新型コロナウィルス感染症のための入国制限などがあり、今回はお招きすることができませんでした。そのため、全体の規模を縮小して、11 月 28 日に大町市文化会館で、来賓の皆様をはじめとする 250 名の出席を得て、記念式典と記念講演会を開催しました。記念講演会では、大町市観光大使であり、エベレスト国内初登頂者の平林克敏氏をお招きし、「エベレストが教えてくれたこと－仕事と山と人と－」と題して講演していただきました。平林氏は、1970 年の日本山岳会エベレスト登山隊に参加され、松浦輝夫氏、植村直己氏とともに日本人初となる世界最高峰への登頂を達成されていますが、そこでの経験がその後の人生において大いに役立ったことなどをお話しいただきました。

大町公民館郷土部の青年たちが、郷土文化を興隆するためには、山岳博物館の設置が最重要課題であ

ると構想・行動し、その熱意と地域住民の支援によって、日本で最初の山岳博物館が誕生しました。その熱い思いを忘れることなく、今後とも市民の皆様に親しまれる山岳博物館にしていかねばとの思いを強くした記念式典でした。

特別展「山の繪―山岳風景画 さんぱく収蔵コレクション―」を 12 月 4 日から 3 月 27 日までの期間で開催する予定でしたが、エレベーターの改修工事と新型コロナウイルスの変異株の蔓延により、3 月 8 日から 4 月 15 日までの開催となりました。

本館の入館者は、夏季に比べて冬季には減少することが課題となっていますが、それを克服するひとつの試みとして、令和 2 年度から「山のサイエンスカフェ」を企画しています。これは、日頃から調査研究に打ち込んでいる学芸員や専門員が、その成果を説明するとともに、参加者の皆様とワールド・カフェ形式で語り合うことを目的とするものでした。しかし、令和 2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症のため講演会形式にせざるを得ませんでした。今年度も、3 月 6 日と 13 日の開催を計画していましたが、やむなく中止とせざるを得ませんでした。

資料収集・保存管理事業としては、新規受け入れによる資料が 724 点あり、収蔵数は、自然科学系資料が 18,255 点＋196 ケース、人文科学系資料が 13,726 点、図書資料が 46,466 点となりました。

調査研究事業としては、高山植物の生活史に関する研究、ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究や地質学に関する調査などを行い、成果については展示や研究紀要論文として発表しました。出版事業としては、研究紀要の他に季刊の広報誌「山と博物館」を発行し市内全戸に配布しました。

教育普及活動の一環として、市内の小中学校をはじめとする学校で、学芸員等が連携授業・実習等を 54 回担当しました。教育委員会所管の博物館として、小中学校との連携は重要な役割であると認識していますので、今後とも充実した企画を提供していきたいと考えています。

ニホンライチョウの飼育繁殖事業としては、1 つがいの自然繁殖に取り組み、1 羽の孵化に成功し、その後も順調に成長しています。

友の会の皆様には、山岳博物館の事業で多方面からご支援をいただき感謝いたします。今年度も、探鳥会や自然観察会など様々な行事を企画・実施して頂きました。また、山岳博物館の 70 周年を記念して、10 台の双眼鏡を寄付していただきました。改めてお礼申し上げます。

以上、令和 3（2021）年度に実施しました山岳博物館の主な事業についてご報告させて頂きました。当館の事業を実施するにあたりましては、大町市民の皆様をはじめ、友の会の皆様、その他関係機関の皆様に大変お世話になりました。末筆ながら深くお礼を申し上げるとともに、引き続き当館の活動に更なるご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1　資料収集

(1) 新規収集資料

令和３年４月１日から令和４年３月 31 日の間に寄贈によって次の資料を収蔵した。

①　寄贈による収集資料

内訳は、動物資料（自然科学系）１件１点、植物標本１件 59 点である。

№.	受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住　所
7	９月７日	植物さく葉標本	59 点	個人	長野県松本市
10	３月 23 日	クマの頭骨（吻端部）	１点	個人	長野県松本市

②購入・製作による収集資料　※博物館資料としての購入・製作した備品扱いの物品のみ（消耗品扱いの図書資料は除く）。

該当なし。

2　資料保存管理

(1) 収蔵資料

①自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系　合計　20,267 点・196 ケース	
蘚苔類（乾燥標本）	674 点	哺乳類（剥製・骨格標本）	245 点
維管束植物（液侵標本）	7 点	鳥類（剥製・骨格標本）	675 点
維管束植物（さく葉標本）	10,500 点	昆虫（標本ドイツ箱）	258 点
魚類（液浸標本等）	70 点	昆虫（未標本作製資料を含む）	4,600 点
両生爬虫類（液浸標本等）	72 点	昆虫（液浸標本）	27 点
貝・甲殻類（液浸標本）	13 点	その他液浸標本（調査研究資料）	103 点
		岩石、鉱物・鉱石、化石等（地質標本）	3,023 点 196 ケース

②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系　　合計　13,726 点	
山岳	11,896 点	寄託（山岳、美術）	409 点
民俗	959 点	（寄託内訳） 個人寄託　160 点※ ※うちピッケル関係　93 点	
美術	249 点		
美術（尾竹正躬関係）	201 点		
歴史	12 点	団体寄託　249 点	

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系　　合計　7,014 点	
自然科学系一般図書資料	6,793 点	自然科学系一般ＡＶ資料	221 点

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系　　合計　39,452 点	
人文科学系一般図書資料	29,804 点	人文科学系一般ＡＶ資料	285 点
山岳資料としての図書資料（注[1]）	9,363 点		

（注[1]）④記載の山岳資料としての図書資料点数は、②記載の人文科学系の山岳資料点数に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 80,459 点・196 ケース（令和 4 年 3 月 31 日現在）

⑥現状と課題

a. 自然科学系

大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」のメンバーに台紙へのマウント作業を依頼し、800 点の登録および配架が完了した。あわせてミュージアムネット（S-net）に情報提供を行った。

b. 人文科学系

昭和 26 年の開館以降の未整理の山岳資料（二次資料や文献資料も含む）及び民俗資料が多数あり、また、現在も年間を通じて新規の寄贈を受けており、毎年継続的に相当量の資料整理・登録作業の必要性が生じている。担当学芸員と事務員を兼務する資料整理員によって通年での作業を随時継続実施しているが、新規受入資料や過去の未整理資料の量に対し、整理作業が追い付いていない状況にある。登録博物館として博物館法に定める事業を実施していく中で、資料収集・保管は基礎的な事業に位置づけられており、博物館活動を行う上で、資料整理・登録業務は常時継続的に実施していくことが求められる。今後も引き続き、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

増加傾向にある寄贈の打診時に、受入の可否を客観的に判断できるひとつの根拠資料とすべく、資料収集に関して、資料受入に関する一定の基準をもうけた内規の作成を検討する必要がある。

なお、山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、平成 26 年度以降、人文科学系の収蔵資料目録を作成、当館公式ホームページ上で一般公開を行っている。公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、最新のデータに毎年更新を行っている。今後は収蔵資料に関する情報公開をさらに進めるため、資料整理の徹底実施を図りたい。

資料整理と収蔵資料に関する情報公開に関し、将来的な課題として、当館収蔵資料（全分野）のほか、市文化財センターの収蔵資料（考古・歴史・民俗資料）と生涯学習課で管理する美術資料を含め、市教委が保管する市所有の各種資料の一括管理について、専門業者が手掛ける博物館・美術館収蔵資料の情報処理システム導入（目録の記録内容のテキストデータや収蔵資料の記録写真の画像データの公開も含め）の必要・有効性や効率性などを関係課・係と協議・研究する必要がある。

(2) 保存管理

資料の保存あたっては、忌避剤やフェロモントラップを定期的に入れ替え、害虫の進入を予防する防虫対策を行うとともに、夏期に空調を稼働して温湿度を調節して防黴等の対策を行ったほか、外気との接点を目止めするなどの防塵対策を行うことで、展示・収蔵環境の管理を随時行った。

展示室や収蔵庫を含め、資料の保存管理環境に関し、博物館レベルの水準に近づけるための維持管理にともなう日常業務の作業量増加や、施設の老朽化に伴う対処業務の事務量増加への対応を検討するとともに、将来を見通した抜本的な施設改修計画を策定する必要がある。同時に、事業全体の中での展示・収蔵環境の維持管理の位置づけを再確認するとともに、分野ごとの担当業務量のバランスを考慮した上で、PDCA サイクルや D-OODA ループによる個別事業と事業全体の再評価と業務の効率化を一層図るなどの業務改善を継続実施することが重要である。

Ⅱ　調査研究事業

1　調査研究

(1) 高山植物の生活史に関する研究（担当：千葉悟志）

本年度は、博物館での栽培個体を中心に花、種子、果実の調査を実施した。

(2) 大北地域の植物分布調査（担当：千葉悟志）

長野県の植物相を把握するため、県下で実施されている植物調査のうち、山岳博物館は今年、大町市池田町・白馬村・小谷村で計 4 回実施した。調査の際には見直しができるように標本を採取し、標本は証拠として山岳博物館植物標本庫に配架予定である。

(3) ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究（担当：栗林勇太・藤田達也・遠藤モナミ・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵）

環境省のライチョウ保護増殖事業に貢献する取り組みとして、ライチョウ飼育園館をはじめ、日本獣医生命科学大学、岐阜大学、中部大学、大阪府立大学と連携しながら共同研究を進めている。本年度も、飼育舎内における年間を通した温度・湿度・紫外線強度・日照度の測定を継続したり、定期的な体重測定や換羽した羽の枚数を計測し、これらの機関に情報提供を行った。無精卵や未発生卵の検査、クレアチニン／尿酸比の季節的検査を日本獣医生命科学大学、糞中に含まれるホルモン測定による温度・日照時間等の関係を岐阜大学、シンバイオティクスの取り組みに関して中部大学にデータの提供を行った。

今後も関係機関と連携を図り、ライチョウの保全事業に必要と考えられる調査研究を行っていく。

また、本年度は、信州大学農学部からの依頼により、繁殖期における音声コミュニケーションの研究を行うにあたり、育雛期のライチョウ親子の飼育部屋にボイスレコーダーの設置を行い、音声及び映像の提供を行った。

(4) 自動撮影カメラによる大町市内の中・大型哺乳類相の確認（担当：藤田達也）

昨今、全国的な鳥獣害被害の増加や外来種の移入・分布拡大が問題視されている。一方で、大町市では,2000 年に旧美麻村地域の動物種をまとめたリスト以降,体系だった野生動物の生息調査が行われていない。そこで,近年の機能の向上が著しく,一般的に野生動物の調査に導入されつつある自動撮影式の赤外線センサーカメラを用いて中・大型哺乳類のモニタリングを実施し、生息種の確認と外来種の移入状況の把握を行った。令和 2, 3 年度における調査結果は令和 3 年度の博物館紀要で公表した。

(5) 大北地域におけるニホンオオカミの調査（担当：栗林勇太）

山岳博物館では「ヤマイヌのキバ」（整理番号M829）という名称の民俗資料を収蔵している。この資料は昭和 57 年に当館に寄贈されたもので、江戸末期から明治の初期頃にかけて、八坂村（現大町市八坂）で収集されたとみられるイヌ科動物の上顎吻端部である。令和 3 年度に行われた特別展での展示を機に、専門家等に写真鑑定を依頼したところ、絶滅したとされるニホンオオカミの可能性が高いとの所見が得られた。

大北地域におけるニホンオオカミは、郷土史に名を遺すのみで、実物資料は見つかっていないことから、ニホンオオカミと鑑定された場合、地域にとって大きな発見となりうるほか、ニホンオオカミの標本は全国的にも数が少なく、その分布や生態等については未知なことが多いことから、本種と同定された際には、本種における科学的知見の集積に貢献することができる。

さらに、大北地域におけるニホンオオカミの生息記録などは、郷土史などに散見される程度で体系だったものがないことから、資料の鑑定だけでなく、これらの情報を収集することで、より深い情報を発信することができる。

以上から、当該資料を通じて、当市や当館において今まで語られてこなかったニホンオオカミに関して研究し、情報発信することで、市民に新たな知見を提供し、地域の魅力を感じてもらうこと、また生物学をはじめ歴史や民俗の分野でも新たな知見を提供することを目的として、研究を行った。

当該資料のミトコンドリアＤＮＡ解析や、聞き取り調査、郷土史などからの情報の収集を行い、大北地域におけるニホンオオカミ・ヤマイヌについて考察を行った。結果は令和３年度研究紀要で公表した。

(6) 北アルプス地域の気象に関する調査研究（担当：鈴木啓助）

爺ヶ岳種池山荘での自動測器による気象観測を、長野県環境保全研究所と共同しながら継続して実施している。

大北地域における気象庁による積雪深観測は、現在のアメダス観測網では大町、白馬、小谷のみである。しかし、アメダス観測以前にはさらに多くの地点で積雪深の観測が行われていた。それら区内気象観測所における積雪深の手書きによる観測原簿から、データを読み取り解析を行った。その解析結果は、山岳博物館研究紀要第 7 号（2022 年 3 月刊）に論文「大北地域におけるアメダス観測以前の積雪深変動」として報告した。

(7) 仁科三湖と佐野坂峠の成り立ちを探る（担当：太田勝一）

仁科三湖と佐野坂丘陵の成因については、従来不明な点が多かった。仁科三湖のうち青木湖は、かつては白馬盆地に連続した谷だったと考えられている。その後、仁科山地で大規模な崩壊が発生して、崩壊土砂が佐野坂丘陵を形成したことが分かっている。これに伴い、旧姫川の南側が堰き止められて、青木湖が形成された。しかし、崩壊がどこからどのようにして発生したのかは分かっていなかった。また、中綱湖と木崎湖の成因については、従来ほとんど調査研究がされていなかった。

そこで本事業では,仁科三湖の成因を探るために,空中写真と地形図を用いた地形解析と、延べ 40 日にわたる現地調査を実施した。これにより、仁科山地の地質と佐野坂崩壊の関係が明らかにされた。本事業の成果は、次年度に追加調査と合わせて考察を加え、令和 4 年度の企画展「仁科三湖の成り立ち」として公表する。

Ⅲ　教育普及事業

1　展示

(1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

①展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,012 点（令和 3 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 453 点、人文科学系　合計 559 点）

展示テーマ	資料点数※[1]	展示テーマ	資料点数※[1]
３階　展示室　「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 104 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	5 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロローグ	18 点		
２階　ホール　「山の成り立ち」ゾーン			計 80 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	36 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	18 点	驚きの北アルプス	23 点
「北アルプスの生い立ち」映像	1 点	中部地方衛星写真	1 点
２階　展示室　「山と生きもの」ゾーン			計 368 点
立山の氷河・カクネ里雪渓・いまを生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	249 点
ニホンカモシカ	9 点	ライチョウ	62 点
渓谷の生物	9 点	湖の生物	18 点
湿原の生物	14 点	ライチョウの捕食者	4 点
１階　展示室　「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 429 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える ―針ノ木峠の歴史―	39 点	山に暮らす ―山の恵みと山村の暮らし―	87 点
山に祈る ―山の信仰―	20 点	「山と人」映像	1 点
大町山岳人列伝	10 点	山を測る ―測量―	5 点
山を調べる ―博物学―	23 点	山を描く ―絵画―	8 点
山を写す ―写真―	21 点	山で学ぶ ―日本の近代登山―	145 点
山に住まう ―山小屋の変遷―	28 点	登山の道具	23 点
山とのかかわりの窓		つながりコラム	5 点

1階　エントランス・ホール			計8点
「北アルプスの自然と人」導入	1点	山とわたしたちの未来	
新・對山館サロン	1点	こどもひろば	6点
1階　特別展示室　「山と美術 ―山岳風景画とウッドシャフトピッケル―」※[2]			計23点
山岳風景画	18点	ウッドシャフトピッケル	5点

※[1] 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。
※[2] 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

(2) 企画展示・特別展示

①特別展「北アルプスに生きた動物の記録 ―さんぱく収蔵コレクション―」（担当：栗林勇太）

a. 会　期：令和3年4月24日（土）～7月11日（日）　※開催日数：延べ69日間

b. 会　場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概　要：当館に収蔵している動物資料及び一部地質・人文資料計84点を展示し、北アルプスとその周辺にくらす生き物を紹介した。会期中、館内で展示の見どころなどを解説するミュージアムガイド等を開催した。

d. 展示構成：北アルプスとその周辺に生息している過去から現在までの生き物について、下記の通り生息場所ごとにコーナーを設けて、時系列で紹介した。

ア　第1章 北アルプスに深海生物？
イ　第2章 北アルプスに生きる動物
ウ　第3章 麓に生きる動物
エ　第4章 北アルプス周辺に生きた動物
オ　第5章 北アルプスに侵入する動物
カ　北アルプスの生物多様性

e. 観覧者：3,460人（有料2,507人、無料953人）

f. 所　見：大町や近隣住民の方から、地元に生きる動物について学ぶことができてよかったとの声や、近隣の小学校からこの特別展を使った授業の依頼もあったこと、また新聞でミュージアムガイドのことを知って調べもの学習や卒業論文の勉強に来館された方もいたことから、動物を学ぶ有効な機会を提供できたと考える。常設展には展示されていない剥製について、トキやオオワシ、カモメなど、「ここにこんな動物がいたのは初めて知った」といった声を聞けたことから、収蔵庫に眠っている剥製を公開する意義があったと考える。特別展を知った理由が、当館のホームページの次に「知人から聞いて来館」されたという回答が多かったことから、一定数の方に本特別展に好印象を持って拡散してもらえたことがわかった。展示方法に関して、良かったが約90%（76%が全体的に良かった、11%が部分的に良かった）、普通が7.4%、良くなかったが0%であったことから、客観的に魅力的な展示が展開できたと考える。展示資料については、「興味深かった」が90%（63%が全体的に興味深かった、27.2%が部分的に興味深かった）を超えた。具体的に興味を持った資料の内容については別紙の通りであるが、「展示解説がもっとあると良い」という回答からも、興味を持ってもらえなかった展示に関しては解説を加えるなどの工夫が必要であったとも考える。もともと関心のあった観覧者が約70%であったのに対し、興味深かったなどの回答が多数を占めたことから、事前知識のある観覧者に対しても効果的な内容であったと考える。展示説明に関しては、約75%がわかりやすかった、普通が18.5%、分かりづらかったが2.5%（2人）であったことから、概ねよかったと考える10～20代の回答が最も多かったことから、若者にも興味関心を持ってもらえるものであった。

g. 関連事業

ア　ミュージアムガイド（担当：栗林勇太）

・開催日：令和3年4月24日（土）　※初日・家庭の日
　5月16日（日）　※家庭の日
　6月26日（日）　※家庭の日
・時　間：各日とも午前10時～・午後2時～　各回20分程度
・場　所：市立大町山岳博物館 特別展示室
・参加者：延べ参加者75人（大人73人、小中生2人）　※観覧料以外の参加費無料

・**概　要**：学芸員が展示の見どころなどを解説。

イ　付属園まつり　教育普及事業２（１）②に記載の通り

ウ　鷹狩山自然観察ツアー　（担当：栗林勇太）

・**開催日：**令和３年５月２日（日）・４日（火）
・**時　間：**午前９時 00 分～午前 10 時 30 分
・**場　所：**鷹狩山（市立大町山岳博物館集合）
・**主　催：**市立大町山岳博物館
・**協　力：**大町山岳博物館友の会
・**参加者：**合計 19 人（子ども 10 人、大人９人）
・**概　要：**鷹狩山でバードウォッチングを実施した。
・**所　見：**子どもと保護者を対象としたものであったが、申し込みの約半数が大人（単身）であった単身の参加者から、「普段から野生動物を観察しているが、しっかりと教えてもらえる機会が欲しかったため、今回参加できてよかった。」との声があった。後日来館し、友の会に入会された単身参加者もいた。子どもからは、「とても楽しかった。」との声が聴かれた。以上から、当事業が市民へのニーズを満たすものであったことが覗え、今後も必要性の高い事業と考える。

エ　標本づくり講座（担当：藤田達也）

・開催日：令和３年６月５日（土）、12 日（日）
・時　間：午後１時 00 分～午後４時 30 分（両日とも）
・場　所：市立大町山岳博物館講堂
・主　催：市立大町山岳博物館
・参加者：各日とも 15 人
・概　要：山岳博物館では多くの剥製を収蔵しているが、それらの剥製がどのような目的で、またどのような手順を経て作られているかについて、市民および来館者が知る機会は皆無に等しい状況と言える。そこで本イベントでは、剥製制作においては最も難易度が低いと考えられる、鳥類の仮剥製を参加者自らが制作することで、博物館の役割の１つでもある収集・保管の重要性について知っていただくとともに、動物に関する知識を深める機会とすることを目的とする。
・所　見：博物館における剥製制作（収集・保管）の意味を、手を動かして体験してもらうことで、より深く理解してもらうことが可能である。また、仮剥製を制作することで、必然的に生き物の細部まで観察することに繋がり、動物に対する観察力を培うことができる。全国的に見ても剥製制作を教えることが可能な博物館、人材は限られており、SNS を通して「関東在住のため自粛したが、コロナ禍でなければぜひ参加したかった。」とのコメントが寄せられることから、全国的にも関心・需要が高いイベントであると考えられる。また、今回は鳥類に限定したが、参加者からは昆虫や哺乳類、骨格標本などを作るイベント開催を希望する声も上がったことから、需要の幅は広いことがうかがえた。

②企画展「北アルプス誕生とそこに息づく高山植物のものがたりー花、果実、種子、芽生え ときどきふしぎ発見！ー」（担当：千葉悟志）

a. 会　期：令和３年７月 17 日（土）～11 月 28 日（日）　※開催日数：延べ 113 日間
9 月３日（金）～13 日（日）の間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

b. 会　場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概　要：北アルプスの成り立ちとそこに広がる高山植物群落についての解説ののち、風衝地－雪田連続体のなかで息づく個々の種について、山岳博物館がこれまで研究してきた成果を通して高山植物の魅力について紹介する。

d. 展示構成：第１章では、平成 30 年度に開催した当館企画展「北アルプス誕生－激動の 500 万年史－」を再編し、北アルプス誕生について解説。第２章では、日本の高山生態系の構成要素は、風衝地と雪田に分けられ、この連続体のなかでそれぞれ適した環境に分布域を持ち植物群落が形成されていることを解説。第 3 章では、風衝地－雪田連続体のなかで、高山植物がそれぞれにあった環境に息づく生活の一部を、花、果実、種子そして芽生えを通して、垣間見ていきます。また、各説明では観察中に発見した図鑑等にはない内容を一部、紹介。そのほか、ボタニカルアートの原画等の展示。

e. 観覧者：8,611 人

f. 所　見：会場内のアンケート結果では、展示方法・資料・説明について「全体的によかった・部分的によかった」等の意見が大多数であり、観覧者の満足度は高かった。また、意見・感想においても大多数が満足いただけたと推測される内容であった。一方、一部に展示解説パネルの文字が多い等の感想や広報の周知内容が十分でないとの意見があり、改善を図る余地があると考えられた。なお、期間中の観覧者（8,611 人）は、前年度比プラス 104%（R２年度 8,247 人）、前々年度比マイナス 11.1%（R1 年度 9,688 人）となり、新型コロナウイルス感染症による度重なる外出自粛等により観覧者数が未だに戻らない傾向にあると考えられ、本展開催が一定の集客につながったかどうかの判定は難しい状況である。

関連事業

ア　ミュージアムガイド（担当：千葉悟志・太田勝一）

・開催日：令和３年７月 17 日（土）　※初日
　　８月 14 日（日）　※家庭の日　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
・時　間：各日とも 10 時 30 分～・14 時 30 分～　各回 30 分程度
・場　所：市立大町山岳博物館 特別展示室
・参加者：26 人
・概　要：担当者が展示の見どころなどを解説。

イ　高山植物のものがたり　八方尾根を歩くー（担当：千葉悟志）

・開催日：令和３年７月 22 日（木・祝）
・時　間：午前８時～午後４時
・場　所：八方尾根（白馬村）
・対　象：大町山岳博物館友の会会員（小学生～大人）
・参加費：1,400 円（解説書、保険料）
・講　師：千葉悟志
・主　催：大町山岳博物館友の会
・参加者：18 人
・概　要：高山植物を観察しながら、花のつくりや訪花昆虫との関係について解説。

ウ　さんぱくゼミナール「高山のお花畑が教えてくれる生き物と生き物の繋がり」
（担当：千葉悟志）

・開催日：令和３年９月 18 日（日）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
・時　間：13 時 30 分～15 時 30 分
・場　所：市立大町山岳博物館 講堂
・講　師：石井　博 氏（富山大学理学部教授）
・募集人数：30 人　　※参加費無料
・概　要：高山植物と訪花昆虫との関係について、北アルプスを中心に研究を行っている石井博氏の講演。

③特別展「山の繪　ー山岳風景画　さんぱく収蔵コレクションー」（担当：清水隆寿）

a. 会　期：令和４年３月８ 日（火）～令和４年４月 15 日（金）　※開催日数：延べ 34 日間
b. 会　場：市立大町山岳博物館 特別展示室
c. 概　要：山岳博物館創立 70 周年事業として開催。当館が所蔵する山岳風景画の秀作約 20 点を展示し、「山の繪」の世界観を感じていただく。
d. 展示構成：当館が所蔵する美術資料のうち、明治期から現代までの作家による主に北アルプスなその山岳を描いた風景画をテーマに、日本山岳画協会に所属経験のある物故作家の作品を中心に展示を構成した。併せて山岳画家が愛用した登山道具なども展示を行った。
e. 観覧者：1,290 人（内訳：有料 814 人、無料 476 人）
f. 所　見：年度当初において令和３年 12 月４日（土）より特別展を開催する予定であったが、館内のエレベーター改修工事のため博物館が臨時休館となったため開催日が変更となった。またその後新型コロナ蔓延防止等重点措置により、大幅に会期が短縮されてしまったことから、次の企画展直前まで会期を延長して実施し、結果的に上記期間特別展を開催した。

関連事業

ア　ミュージアムガイド（担当：清水隆寿）

・**開催日**：令和４年１月 16 日（日）　※家庭の日　→新型コロナ蔓延防止のため中止
　　令和４年２月 20 日（日）　※家庭の日　→新型コロナ蔓延防止のため中止
　　令和４年３月 20 日（日）　※家庭の日

・**時　間**：各日とも 10 時 30 分～・14 時 30 分～　各回 30 分程度

・**場　所**：市立大町山岳博物館 特別展示室

・**参加者**：合計 13 人

・**概　要**：学芸員が作品の見どころなどを解説。

(3) さんぱく研究最前線 ―北アルプスの自然と人 トピックス―（担当：清水隆寿）

山岳博物館２階ホールにおいて、博物館からの最新の研究成果や話題性のある情報をパネルにして、3 ヶ月ごとに内容を入れ替えながら、来館者の皆様に展示をご覧いただくコーナーとして、平成 26 年の展示改修より開始されたパネル展示。博物館での展示が終了しだい、大町市役所 1 階市民ホールにて約２週間それぞれ同パネルの出張展示（移動展示）を市民対象に実施した。

なお、パネル展にあわせて、展示期間中に発行する広報誌『山と博物館』に展示内容を紹介する特集ページを掲載し、展示をご覧いただけなかった方々にも情報提供を行った。

①テーマ「センサーカメラを用いた野生動物の観察～大町市内の野生哺乳類のいま～」
（担当：藤田達也）

a. **会　期**：当館 ２階ホール展示　令和３年４月１日（木）～6 月 30 日（水）
　　市役所 市民ホール展示　令和３年８月 16 日（月）～27 日（金）

b. **掲載誌**：『山と博物館』2021 春号（第 66 巻第１号）

②テーマ「大町から消えた霊鳥　ブッポウソウ」　（担当：栗林勇太）

a. **会　期**：当館 ２階ホール展示　令和３年７月１日（木）～9 月 30 日（木）
　　市役所 市民ホール展示　令和３年 11 月 15 日（月）～26 日（金）

b. **掲載誌**：『山と博物館』2021 夏号（第 66 巻第２号）

③テーマ「山岳地域で気象観測をすることはなぜ大切なのでしょうか」　（担当：鈴木啓助）

a. **会　期**：当館 ２階ホール展示　令和３年 10 月１日（金）～12 月 28 日（火）
　　市役所 市民ホール展示　令和４年２月 21 日（月）～3 月４日（金）

b. **掲載誌**：『山と博物館』2021 秋号（第 66 巻第３号）

④テーマ「クサレダマってどんな植物？」　（担当：千葉悟志）

a. **会　期**：当館 ２階ホール展示　令和４年１月 12 日（火）～4 月 30 日（土）
　　市役所 市民ホール展示　令和４年５月２日（月）～13 日（金）

b. **掲載誌**：『山と博物館』2021 冬号（第 66 巻第４号）

(4) 移動展示

①「第 17 回 安曇野アートライン展」への参加と協力　（担当：清水隆寿）

a. **会　期**：令和３年 11 月 23 日（火）～12 月 19 日（日）

b. **会　場**：国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区 あづみの学校多目的ホール（安曇野市）

c. **概　要**：安曇野アートライン推進協議会加盟の美術館・博物館の作品や紹介パネル等を一堂に展示し、各館所蔵の芸術作品の鑑賞及び出展館の由来や歴史などを通してアートの世界を体感していただいた（主催：アルプスあづみの公園マネジメント共同体、共催：安曇野アートライン推進協議会）。
また、本展開催期間中、あづみの公園とアートライン加盟館の利用促進を目的として、各館を巡る「アートライン・スタンプラリー」を実施。本年度、当館からの出品作品は、山川勇一郎氏油彩画５点を出展。 また、スタンプラリーにも参画し、景品として山岳博物館無料入館券を提供。
なお、会期中の入場者数は 6,378 人であった。

②「令和３年度　美術館を学校で楽しもう　－出張美術館で秀作絵画・彫刻に触れる－安曇野アートライン展」（通称：安曇野アートライン出張美術館）　（担当：清水隆寿）

a. 会　期：令和３年10月18日（月）～19日（火）

b. 会　場：白馬村立白馬中学校　多目的室

c. 参加者：白馬中学生１年～3年　生徒206人・先生９人 合計215人　※他若干の父兄の鑑賞あり。

d. 概　要：安曇野アートライン加盟館のうち12館より作品を白馬中学校の多目的室に持ちより、（油彩画・水彩画・版画・写真・彫刻など合計29作品）を出品・展翅した。

10月18日午後は３年生生徒を対象に、19日午前は２年生、午後は１年生を対象に加盟館学芸員ほかによるギャラリートーク及び展示観賞を開催した。

山岳博物館においては、大下藤次郎「六月の穂高岳」ほか２点の絵画作品を展示した。

生徒からの感想は、「初めてこんな機会をもててよかった」「改めて美術館に行って見たくなった」「近くに沢山の美術館・博物館があることを知っておどろいた」との意見をいただいた。現在の学校カリキュラムでは、年々美術に関する授業が減り、美術品鑑賞教育などの時間もほとんどない。そうした中で、こうした機会を通じて、本物の美術作品に触れ、関心を持つつきっかけを作れたことは大きな成果であると感じる。これまでの関心を持っている人だけが、美術館の作品を観賞するということから、なかば強制的にでも芸術、美術の専門学芸員が語りかけることによって、新たな気づきや発見、関心を呼び起こすことになればという積極的教育普及が、うまくいった事例となったのではないかと考えている。

2　教育普及活動

(1) 学習会等の開催

①市立大町山岳博物館主催　大町山岳博物館友の会 共催事業

令和３年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会

「大町市にみる岳・野・湖・山」（担当：藤田達也）

a. 共　催：大町山岳博物館友の会

b. 開催日：令和３年４月18日（日）　午後１時～午後３時

c. 場　所：市立大町山岳博物館 講堂

d. 対　象：大町市民・友の会会員　大人～子ども　定員50人　参加人数45人

e. 講　師：矢野孝雄氏

f. 概　要：大町市と北アルプスの成り立ち、大町市の岳・野・湖・山の自然資源からもたらされる恵みについて講演いただき、自分たちの生活する、あるいは活動する大町市や北アルプス近隣地域への理解を深めていただく機会とする。

g. 所　見：講演会参加者の約58%が大町市内からであり、残りは北安曇地域を中心に中信地域からの参加者であった。残念ながらコロナの感染拡大状況により参加を辞退された県外（関東圏）の方の参加予約もあった。公式ホームページを見て参加したというアンケート結果からも、インターネット経由での広域的な告知効果が少なからずあったことが考えられる。子どもたちの参加がなかった。子どもたちにも関心を向けさせるような内容への創意工夫が必要である。催しの日時、方法については全体的によかった、部分的に良かったと、合わせて 89%と高評価であった。その他の評価としてはコロナの現状を加味すると会場が狭いと感じたという意見があった。催しの内容については全体的によかった、部分的に良かった、の評価が回答漏れを除くと 100%であったため、参加者からの満足度は高かったと言える。

②ふぞくえんまつり（担当：栗林勇太・遠藤モナミ・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵）

a. 会　期：令和３年５月１日（土）～5月５日（水）

b. 会　場：市立大町山岳博物館 付属園

c. 参加者：延べ1180人（子ども～大人）

（内訳）「ふぞくえんクイズラリー」　158人
「ワークショップ」　23人
「どうぶつ観察ツアー」　32人
「おおまぴょんと遊ぼう」　40人

「ライチョウガイド」　　927 人

d. 概　要：展示動物を題材にしたクイズを解いて回る「ふぞくえんクイズラリー」、展示動物を解説しながら園内を巡る「どうぶつ観察ツアー」、ライチョウの生態や保全について解説を行う「ライチョウガイド」、幅広い層にカモシカに興味を持っていただく「おおまぴょんと遊ぼう」、工作体験を通し動物に関心をもってもらう「ワークショップ ライチョウ・カモシカをつくろう」の 5 の催しを実施した山岳博物館では、開館間もない昭和 28 年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成 9 年度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「ふぞくえんまつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

e. 所　見：「ふぞくえんクイズラリー」については、例年スタンプラリーを実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加者にスタンプに触れさせることができず、クイズラリーに変更したものの子どもから大人まで幅広く参加者が見られた。記念として付属園内を回る際のアクセントとして非常に有効であったと考える。ライチョウの見学に多くの来館者が見えられたことから、随時解説を行う「ライチョウガイド」は保全への関心や当館の事業を理解していただくうえで有効であったと考える。更に、「どうぶつ観察ツアー」では、飼育動物について解説を加えることで、付属園の役割や傷病鳥獣救護といった観点にとどまらず動物への関心を深める機会となり、自然環境保全への入り口としての機能を果たした。「ワークショップ」については 23 人の参加があったが、特に未就学児～小学校低学年の児童と保護者が大半であり、楽しむ声が聞かれた。講堂の場所が分かりづらかったことから、実施場所等検討の余地がある。

全体として催しが関連を持ちながら実施することができた。ボランティアの負担が大きいことから、時間等について検討する必要がある。

ア　「ふぞくえんクイズラリー」

付属園の展示動物を題材にしたクイズを解きながら付属園を回ってもらうことで楽しみながら学ぶ機会とするとともにじっくり観察してもらうことで見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただく。

・開催日時　5 月 1 日（土）～5 月 5 日（水・祝）　《5 日間》

イ　「ワークショップ ～ライチョウとカモシカを作ろう」

ライチョウとカモシカの形態的特徴をスライドで説明しつつ、折り紙でライチョウとカモシカを作成し、小さい子供にもライチョウ・カモシカを身近に感じてもらうきっかけとする。

・開催日時　5 月 1 日（土）、5 月 3 日（月）

ウ　「どうぶつ観察ツアー」

来園者と一緒に付属園の飼育動物を解説しながら園内を回ることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただく。

・開催日時　5 月 2 日（日）、5 月 4 日（火・祝）　各日午前 11 時～、午後 2 時～

エ　「おおまぴょんと遊ぼう」

カモシカをモチーフとしたおおまぴょんが動物観察ツアーの後に登場。小さい子供にも付属園やカモシカに親しんでもらう機会とする。

・開催日時　5 月 2 日（日）、5 月 4 日（火・祝）　各日 11 時 30 分～、15 時～

※5 月 2 日は雨天のため中止。

オ　「ライチョウガイド」

一般公開の始まったライチョウについて、展示されている生体のライチョウを見ながら生態や保全の取り組みについて解説を行うことで、ライチョウやその生息する高山生態系の保全について理解を深めていただく機会とする。

・開催日時　5 月 1 日（土）～5 月 5 日（水・祝）

③さんぱくこども夏期だいがく「超！蝶観察会」（担当：栗林勇太）

a. **開催日**：令和３年８月１日(日)

b. **時　間**：午前10時～正午

c. **場　所**：大町公園及び市立大町山岳博物館　講堂

d. **参加者**：定員20人　参加人数19人

e. **概　要**：山岳博物館で平成23年から毎年開催している「さんぱくこども夏期だいがく」は、夏休み期間中の小学生を対象とした催しである。鷹狩山周辺におけるチョウ（昆虫綱鱗翅目アゲハチョウ上科・セセリチョウ上科に属するもの）の生息する場所や種類、からだの作りについて学び、地域に生息する生き物について目を向けるきっかけとすることを目的として、野外観察（チョウの採取・観察・同定)、標本観察、顕微鏡での観察、鷹狩山周辺に生息するチョウの説明を行った。

f. **所　見**：参加者は北安曇郡内～安曇野市までの範囲（1組のみ愛知県から参加）で、定員以上の申し込みがあったことから、チョウの観察会は近隣住民からのニーズの高いイベントであることが分かった。チョウを採取する難しさを体感してもらうとともに、採取できた時の喜びを感じてもらえた。また、普段からチョウを採取したことのない参加者が半数ほどであったことから、野外での昆虫採取体験の良い機会となったと考える。プレゼンや標本を紹介しながら鷹狩山周辺で観察できるチョウやガを説明したところ、参加者のリアクションから「これは見たことがない」という声などが多く聞かれたため、チョウについて詳細な知識を有している参加者は少なかったように感じた。そのため、普段から関心の少ない子どもたちに、チョウやガについて説明する機会を提供することができた。チョウ以外の種も採取している子どもも多く、純粋に昆虫採取を楽しんで時間いっぱいまで探し回っている参加者が多かった。観察種数が限られたことから、今後同様のイベントを実施する際には、７月上旬など実施時期を変更するほか、温度の低い時間に設定するなど実施時間を早める対応をする必要がある。

④自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウオッチ「セミのぬけがらを探せ！」（担当：栗林勇太）

（「長野県環境保全研究所 令和３年度自然ふれあい講座」を兼ねて開催）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一般参加を中止、調査のみ主催者で行う。

a. **開催日**：令和３年８月４日（水）

b. **共　催**：長野県環境保全研究所

　協　力：自然観察指導員長野県連絡会、セミの抜け殻しらべ市民ネット

c. **場　所**：大町公園周辺 及び 当館 山岳総合センター講堂

d. **参加者数**：大人４人（内、博物館実習生１人）

e. **概　要**：長野県内で身近なところで起きている自然の変化の記録を持ち寄り、本当に温暖化などの変化が起きているのかを、セミの抜け殻を探す調査や観察を通して、地球環境の在り方を考えていただくことを目的に例年開催している。本年度も大町市以外に長野県下５ヶ所（長野市・上田市・松本市・伊那市・飯田市）にて同様の調査を継続している。

　新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一般参加を中止したが、継続的なモニタリングが必要であることから、長野県環境保全研究所職員、博物館実習生及び当館職員で、大町公園内でセミの抜け殻を回収し同定を行った。

f. **所　見**：本年は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一般参加は中止となったが、継続してモニタリングすることで温暖化の影響を把握ができることに加え、子どもに自然への関心を持ってもらうための有効な手段であることから、次年度以降も継続して実施していきたい。

⑤親子地学教室「河原の石ころを見に行こう」（担当：太田勝一）

　当初は９月12日に実施予定だったが、全県のコロナ警戒レベルが４となったため、10月31日に延期した。

a. **開催日**：令和３年10月31日（日）

b. **時　間**：午前9～11時30分

c. **場　所**：大町エネルギー博物館近くの篭川の河原

d. **協　力**：大町エネルギー博物館、山岳博物館友の会

　　当日はエネルギー博物館の御厚意により、エネ博の入館料を無料にしていただいた。

e. **参加者**：小学生と保護者　9組24人
f. **参加費用**：500円/組
g. **概　要**：高瀬川の支流・篭川は、北アルプスの蓮華岳から爺ヶ岳を源流域とする河川であり、かつて存在した爺ヶ岳カルデラの主要部を侵食している。このため、篭川の河原の石ころは爺ヶ岳カルデラを構成していた岩石から構成される。本企画では、親子で河原の石ころを採集し岩石標本を作ることにより、北アルプスの成り立ちを実物で楽しく理解してもらった。当日の内容を以下に要約する。
・あらかじめ設定した、採取する石ころの区分について説明。
・組ごとに見本写真を見ながら8種類の石ころを拾い、標本ケースに整理。
・拾った石ころが区分と合っているかを、3班に分かれて答え合わせ。
・拾った石ころが、北アルプスの成り立ちでどんな意味を持つかをパネルで解説。
h. **所　見**：本企画は、当博物館では初めての試みであった。普段は何気なく見ている河原で多様な石ころが採取できたので、大人も子どもも楽しんでいた。また、それぞれに石ころには北アルプス誕生の秘密があることを知り、子ども達からも積極的な質問が出た。今後は、大人のための観察会も検討していきたい。

⑥さんぱくこども冬期だいがく「雪上アニマルトラッキング」（担当：藤田達也）
a. **開催日**：令和4年2月5日（土）・12日（土）
b. **時　間**：9時00分～正午
c. **会　場**：鷹狩山周辺
d. **対　象**：小・中学生とその保護者定員20人　　参加費無料
e. **その他**：本年新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一般参加は中止となった。

⑦研究報告＆座談会
「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2022」さんぱくゼミナール（担当：千葉悟志）
a. **開催日**：令和3年3月6日（日）【前期】・15日（日）【後期】
b. **時　間**：前･後期両日とも 午後1時30分～午後4時
c. **場　所**：市立大町山岳博物館 講堂
d. **研究報告**：【前期】「雪上のアニマルトラッキングで見る大町のイノシシ最前線」（藤田）、「居谷里湿原にみるミズバショウとリュウキンカのくらし」（千葉）、「過去100年間の積雪変動」（鈴木）
【後期】「大町とオオカミ」（栗林）、「千人岩はどこから来たのか」（太田）、「ウォルターウェストンの生涯」（清水）
e. **概　要**：当館の調査研究事業について、具体的な内容を市民や地域住民にわかりやすく伝えることにより、その学術的な価値を広く社会に認知してもらい、地域における山岳文化の醸成に結びつける目的で企画・開催。
　当館の職員が前年度の『研究紀要』誌上で発表したり、当年度の「さんぱく研究最前線」でパネル展示を行ったりした北アルプス周辺地域の自然科学と人文・社会科学の諸分野における調査研究、あるいは収蔵資料に関する各種情報等について研究報告・話題提供を行う。
　本催しは冬期間の博物館利用者数の増加へつながるように、前期・後期の2回にわたって2週連続で実施するスタイルとした。
f. **その他**：新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(2) 学校との連携・融合（調整：千葉悟志・藤田達也）

期　日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数（人）	指　導
4月2日	職業体験学習	美麻小中5年	1	藤田
4月9日	職業体験学習	美麻小中5年	1	藤田
4月16日	職業体験学習	美麻小中5年	1	藤田
4月23日	職業体験学習	美麻小中5年	1	藤田
4月30日	職業体験学習	美麻小中5年	1	藤田

5 月 7 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
5 月 14 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
5 月 21 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
5 月 21 日	野生動物の調査指導（大町市）	八坂中 1 年	3	藤田
6 月 3 日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	大町南小 5 年（2 班）	39	千葉・太田
6 月 11 日	総合的な学習	仁科台中	6	
6 月 18 日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	大町西小 5 年（2 クラス）	47	清水・千葉
6 月 18 日	館内見学・青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	松川小 5 年	74	太田・栗林
6 月 29 日	学校連携授業「市の様子」	大町北小 3 年（2 クラス）	42	清水
7 月 2 日	館内見学	小川小学校	14	千葉
7 月 2 日	出張講座　ライチョウについて（伊那市）	西箕輪中 2 年	60	栗林
7 月 5 日	生き物について	大町幼稚園	18	栗林
7 月 7 日	親海湿原自然観察指導（白馬村）	大町岳陽高 1 年（2 クラス）	80	千葉
7 月 7 日	理科	生坂小	12	栗林
7 月 9 日	野生動物の調査指導（大町市）	八坂中 1 年	5	藤田
7 月 15 日	学校連携授業「市の様子」	美麻小中 3 年	9	清水
7 月 16 日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	池田小 5 年（2 班）	33	清水・藤田
7 月 19 日	木崎湖キャンプ自然観察指導（大町市）	大町北小 5 年（2 クラス）	52	清水・栗林
8 月 1 日	キャリアアップ研修	大町岳陽高校	1	藤田・栗林・千葉
8 月 27 日	野生動物の調査指導（大町市）	八坂中 1 年	5	藤田
8 月 27 日	総合的な時間	美麻小中 8 年	10	栗林
10 月 20 日	学校連携授業「大地のつくりと変化」	八坂小 6 年	5	太田
10 月 26 日	学校連携授業「大地のつくりと変化」	美麻小中 6 年	15	太田
11 月 12 日	学校連携授業「人の体のつくりと運動」「ライチョウの生活」	美麻小中 4 年	11	藤田
11 月 5 日	見学学習「人の体のつくりと運動」「ライチョウの生活」	白馬北小 4 年（2 クラス）	51	栗林・藤田
11 月 10 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
11 月 12 日	学校連携授業 「郷土に伝わる願い」「生き物のくらし」	大町北小 4 年（2 クラス）	46	清水
11 月 12 日	野生動物の調査指導（大町市）	八坂中 1 年	3	藤田
11 月 16 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
11 月 19 日	学校連携授業「大地のつくりと変化」	大町東小 6 年	25	太田
11 月 25 日	学校連携授業「市の様子」	大町南小 3 年（2 クラス）	39	清水
11 月 22 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
11 月 25 日	学校連携授業「昔の道具」	美麻小中 4 年	10	清水

11 月 30 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
12 月 7 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
12 月 14 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
12 月 15 日	ライチョウについて（リモート）	三郷中 1 年	12	栗林
12 月 21 日	職業体験学習	美麻小中 5 年	1	藤田
2 月 10 日	山岳図書資料館見学	大町岳陽高 3 年	1	清水
3 月 21 日	飼育員の仕事について	大町岳陽高 2 年	1	栗林
実施回数：54 回（延べ 45 日）		学校数：16 校	人数合計：742 人 （延べ 742 人）	

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（調整：千葉悟志）

a. **実施日**：上記のとおり　※6～11 月の間に、市内 5 小学校により延べ 10 回実施

b. **場　所**：理　科：2 階「山と生きもの」「山の成り立ち」、付属園　ほか
社会科：1 階「山と人」、3 階「展望ラウンジ」

c. **参加者数**：市内小学生 延べ 730 人（内訳：3 年生 81 人、4 年生 225 人、6 年生 45 人）
※このほか各小学校教員先生方の引率あり

d. **概　要**：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成 22 年度から 2 ヶ年、大町南小学校をモデル校に 4 年生の理科授業（動物）を年 1 回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。それをふまえ、平成 24 年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。平成 29 年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより、さらに実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざす。同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

ア　**連携授業 プログラム 1**　理科・4 学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」
（学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ）

イ　**連携授業 プログラム 2**　社会科・6 学年「土地（大地）のつくりと変化」
（学習素材：化石、北アルプスの地形・地質）

ウ　**連携授業 プログラム 3**　社会科・3 学年「わたしたちのまち みんなのまち ―市の様子―」
（学習素材：床面地図（空からマップ）、3 階からの展望（市街地周辺）など）

エ　**連携授業 プログラム 4**　社会科・3 学年「かわってきた人々のくらし ―古い道具と昔のくらし―」
（学習素材：山や雪にかかわる古い道具（民具）の展示）

オ　**連携授業 プログラム 5**　社会科・4 学年「きょう土を開く（きょう土に伝わる願い）」
（学習素材：地域の発展に尽くした先人・百瀬慎太郎）

カ　**連携授業 プログラム 6**　社会科・4 学年「わたしたちの県 ―県の広がり・特色のある地いきと人々のくらし―」
（学習素材：床面地図（空からマップ）、3 階からの展望（北アルプス後立山連峰周辺）など）

キ　**連携授業 プログラム 7**　理科・4 学年「天気の様子」
（学習素材：山岳博物館付属園の気温観測記録）

e. **所　見**：平成 26 年 3 月の展示改修によって、これまで実施してきた理科・社会科の連携授業により一層対応した展示内容となっており、それに沿った形での授業の流れやワークシートの編集といった点について、改善を加えて実施している。29 年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざした。

通常は 4 月または 5 月に開催される市内校長会で説明依頼を行うところであるが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、説明依頼が 6 月下旬になった。また、9 月にも新型コロナウイルス感染症拡大により、臨時閉館があるなど、先行きの見通しが立たず、例年のような希望数が得られない状況となった。

なお、プログラム 7 の実施希望は全くないことから、削除とし、既存のプログラムの充実を図るものとする。

(3) 博物館実習の受入（調整：藤田達也）

期　日	実　習　者	人員	指 導
7月31日（土） ～8月5日(木) ※計6日間	清泉女学院大学 人間学部 4年生 信州大学 人文学部 4年生 愛知学院大学 文学部 4年生 信州大学 工学部4年生 社会人学生（八洲学園大学）	5人	鈴木・清水 千葉・栗林・ 藤田

博物館法施行規則第2条（博物館実習）第1項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

当館での実習志望の理由は例年と同様であり、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したためで、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。また、学生が受け入れ先の博物館等を探すことは困難のようで、毎年受け入れ実績がある当館への学生のニーズは高いことがうかがえる。計画に基づき、一つの事業に限らず網羅的に博物館全体の業務を経験していただくことで、学芸員になるための単位取得のためだけではなく、博物館における多岐にわたる事業の理解と、地方における地域博物館の役割について深く理解していただけた。当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の1日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付したことで、指導担当職員と学生の両者で個々の実習日の概要について把握できたので効果的であった。

毎年、当館公式ウェブサイト担当学芸員によって、当館ウェブサイト上に実習生の感想を掲載している。サイトに掲載された過去の実習感想を読んで申し込みを行う学生が多く、今回の実習生も全員がこれらを読んでおり、実習館選定の判断材料のひとつとしていた。今年度も実習生に感想文を依頼し、サイトに掲載して広く周知・宣伝を行っている。

(4) 学習会等への協力（調整：千葉悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	主　催	人数(人)	指　導
4月15日	冒頭展示説明	諏訪市柿の木観光バス	18	千葉
5月8日	北アルプス国際芸術祭参加アーティスト視察	大町市企画財政課	4	清水
5月9日	探鳥会 in 大峰（池田町）	大町山岳博物館友の会	18	栗林
5月15日	「すごいぞ！信州の山シリーズ」①（大町市）	長野県山岳総合センター	14	藤田
5月22日	ライチョウ保全について	ぐるったネットワーク	18	栗林
5月23日	YAMAP スタッフ視察	大町市企画財政課	6	千葉
7月17日	出張講座（安曇野市）	豊科図書館	20	鈴木
7月17日	展示解説	須坂市生涯学習課	14	清水
7月21日	出張講座（諏訪市）	諏訪市公民館	24	清水
7月22日	高山植物観察会（白馬村）	大町山岳博物館友の会	20	千葉
7月27日	出張講座（大町市）	美麻小中児童クラブ	10	藤田
7月28日	たかがり自然探検隊（大町市）	長野県山岳総合センター〈山岳博物館協力事業〉	15	栗林
7月28日	展示解説	JTB ガイヤレック	14	清水
7月29日	展示解説	大町市社会福祉協議会	20	清水
7月29日	展示解説	須坂市生涯学習課	8	清水
7月30日	出張講座（大町市）	大町北小児童クラブ	35	栗林

8 月 5 日	出張講座（大町市）	大町西小児童クラブ	30	栗林
8 月 6 日	出張講座（大町市）	大町南小児童クラブ	15	栗林･藤田
8 月 20 日	展示解説	三越伊勢丹ニッコウトラベル	7	藤田
9 月 25 日	展示解説	道新観光	22	清水
10 月 7 日	展示解説	須坂市生涯学習課	11	清水
10 月 17 日	地質研修	大町山岳博物館友の会	8	太田
10 月 23 日	出張講座（小川村）	大町山岳博物館友の会	15	清水
10 月 20 日	展示説明	富山県立山カルデラ博物館友の会	18	千葉･栗林
10 月 29 日	冒頭展示説明	高水高校	15	清水
10 月 29 日	冒頭展示説明	International school of NAGANO	12	清水
11 月 10 日	展示説明	長野県自然保護課	7	千葉
11 月 11 日	出張講座（大町市）	八坂公民館	30	太田
11 月 12 日	出張講座（大町市）	シニア大学	8	千葉
11 月 13 日	出張講座（大町市）	大町市文化財センター	39	太田
11 月 16 日	展示説明	駒ケ根市議会	3	鈴木
11 月 25 日	展示説明	上高地ネイチャーガイド協議会	12	太田・千葉・栗林
11 月 26 日	展示説明	静岡市環境創造課	3	栗林
12 月 1 日	出張講座（大町市）	長野県林業大学校	20	鈴木・栗林
2 月 19 日	出張講座（安曇野市）	堀金図書館	20	栗林
2 月 23 日	出張講座（糸魚川市）	糸魚川フォッサマグナミュージアム	32	栗林
2 月 20 日	出張講座（南アルプス）リモート	静岡市	53	栗林
3 月 10 日	展示説明	斎藤ホテル	5	藤田
3 月 17 日	展示説明	斎藤ホテル	6	清水
3 月 24 日	展示説明	斎藤ホテル	9	栗林
3 月 24 日	出張講座（大町市）	大町市観光課	8	清水
実施回数：52 回（延べ 41 日）		件数：41 団体	人数合計：613 人	

前記以外に、下記の各種事業に協力した。

① 第 20 回 北アルプス雪形まつり（担当：清水隆寿）

新型コロナウイルス感染症の影響により、ステージ発表や雪形ウォッチングなどが中止となり、内容を縮小して実施した。大町市生涯学習課が主管する児童絵画・詩・俳句・短歌については、市内小学校に応募を呼びかけ、作品を市立大町図書館に展示。また山岳博物館が主管である雪形写真展については、4 月 28 日（水）～5 月 10 日（月）に大町温泉郷のホテル内に雪形パネルの展示を設置し、来場者の方々にご覧いただいた。

前述のとおり、本年度の雪形ウォッチングについては、当初 5 月 15 日（日）、29 日（日）の 2 日間を計画していたが、新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となった。

② 第 10 回 信州・大町 山の子村キャンプ 〔福島の子ども保養プログラム〕（調整：清水隆寿）

本年度も福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子ども達に、心身の保養をしていただく環境を大町に整えて過ごすことを目的とした信州・大町 山の子村キャンプ実行委員会に共催として加わった。

a. **主　催**：信州・大町 山の子キャンプ実行委員会（実行委員長 荒山雄大氏）

b. **共　催**：大町市教育委員会（主管：市立大町山岳博物館）
c. **後　援**：大町市、大町市社会福祉協議会、長野県労働金庫大町支店、北アルプス医療センターあづみ病院 会ほか
d. **協力団体**：山の子クラブ、企業組合山仕事創造舎、大町山岳博物館友の会ほか
e. **所　見**：本年度も計画を予定していたが、残念ながら新型コロナウイルス蔓延防止のため事業の中止を余儀なくされた。

(5) 博物館資料の特別利用（調整：千葉悟志）
①館内利用　6 件（このほか、山岳図書資料の館内利用 30 件）
②館外利用　7 件　※内訳は下記のとおり（このほか、山岳図書資料の館外利用 2 件、長期貸出による館外利用 4 件）

期　間	目　的	利用者	利用資料・点数
4 月 29 日	作画資料	個人	館外観写真データ 1 点
6 月 11 日～	雑誌掲載	㈱プラネットライツ	百瀬慎太郎関係写真画像データ 7 点及び登山道具写真画像一式
7 月 20 日～	学術誌掲載	個人	ライチョウ舎外観、2 階展示室標本（アオゲラ）
11 月 3 日～	Twitter 掲載	個人	ライチョウ写真 3 点
12 月 28 日	学術誌掲載	個人	ヨツシベヤマネコノメ 1 点
1 月 19 日	リーフレット掲載	大町市観光課	博物館外観
3 月 9 日～15 日	TV 番組放送	合同会社グリーン	ライチョウ写真・映像

③長期貸出　4 件

期　間	目　的	利用者	利用資料・点数
昭和 55 年 7 月 21 日～	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
昭和 56 年 7 月 1 日～	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
平成 18 年 11 月 15 日～	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製 1 点
平成 28 年 4 月 28 日～	常設展示	長谷川恒男記念庫	長谷川恒男使用登山靴 1 点

※これらのほか、報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。
なお、社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会については別途記載のとおり。

(6) 山岳図書資料館の利用（担当：清水隆寿・降籏秀子）

開館日数	利用者数※			資料閲覧	資料貸出		利用時間
	市内	県内	県外	件数	件数	点数	
316 日	8 人	23 人	18 人	49 件	2 件	12 点	計 44 時間 36 分
	計 49 人			計 30 件			

※資料閲覧と資料貸出との同時利用者を含む

3　執筆・出版

(1) 出版
①出版物
a. **広報誌『山と博物館』**（担当：藤田達也）
本誌は、当館創立 5 年後の昭和 31 年 2 月 20 日「やまと博物館」として第 1 号を創刊。当初は当館後援会発行による有料による月刊の発行物として、旬の話題や保護動物の紹介、博物館の出来事などの記事を掲載していた。その後、「山と博物館」に改称。当館発行の月刊機関誌として位置付けられるようになり、各分野の専門家や職員等による学術色の濃い読み物的な内容の文章を掲載するようになる。時代を経るにつれ、前述のような内容の紹介に誌面を多く割くようになったが、平成 26 年 3 月の展示改修によるリニューアルオープンを機に、創刊当初に立ち返り、博物館の動きや北ア

ルプスの話題などをより分かりやすく、より広くお伝しようと考え、本誌の編集方針を大幅に見直して誌面を刷新。第59巻第3号（2014年4月号）から、無料の広報誌として位置づけて発行することとした。これは平成27年度の『研究紀要』創刊を見越して学術的な文書の掲載はそちらに譲り、速報的なお知らせ等は平成26年3月の展示改修を機にサイトをリニューアルした公式ホームページを最大限に活用するといった広報・宣伝を含め、館全体の情報発信体制を見直す中でのことであった。平成30年度からは、これまでの月刊から季刊に変更、夏・秋・冬・春の年4回とし第63巻第4号（2018夏号）から第64巻第1号（2019春号）を発行した。これは、大町市が山岳文化都市宣言のまちであることから、市民の皆様に当館をより身近に感じていただけるように、毎号の誌面を増やして今まで以上に内容を充実し、市内全戸の皆様方に配布することとしたことによる。

本年度は、第66巻第2号（2021夏号）〔発行日：令和3年6月25日〕、同第3号（2021秋号）〔発行日：令和3年9月25日〕、同第4号（2021冬号）〔発行日：令和3年12月25日〕、第67巻第1号（2022春）〔発行日：令和4年3月25日〕を編集・発行した。

各号の発行部数：10,500部、体裁：A4判、8頁、カラー刷り。毎号、『広報おおまち』とともに組み込み文書として市内全戸へ配布し、市内の小中学校や社会教育施設・文化施設等へ配布・設置したほか、県内外の関係者や関係機関等への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

b.『年報』（担当：清水隆寿）

『市立大町山岳博物館 令和2年度 年報』（発行日：令和3年8月30日、発行部数：200部、体裁：A4判、56頁、単色刷り）を編集・発行し、関係機関への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

c.『研究紀要』（担当：江津文人）

当館では、調査研究事業の一層の充実を図ることで、学術的な成果情報を資料収集保管事業や教育普及事業へ展開するという博物館活動の良好な循環体制の構築を進めるため、北アルプスと周辺地域の自然科学、人文・社会科学諸分野の調査研究に関する学術的な成果情報を収録する『研究紀要』を平成27年度に創刊した。

本年度、『市立大町山岳博物館研究紀要 第7号』（発行日：令和4年3月31日、発行部数：本誌500部、本誌体裁：A4判・カラー、51頁）を編集・発行し、関係者や関係機関等へ配布した。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

d. 学会・研究会等での発表

YUKI MITSUI, CHIYOSHI SATO, SATOSHI CHIBA, TATSUYA TSUCHIYAMA, KENTO FUCHINO, YUKI ASANO, KEISUKE TANAKA, FUTOSHI MIYAMOTO (2022) Development and characterization of EST-SSR markers for Tephroseris furusei (Kitam.) B.Nord. (Asteraceae) and cross-species amplification.Acta phytotax.Geobot.73(1):87-92

藤田淳一・大塚孝一・尾関雅章・千葉悟志・佐藤利幸(2022)長野県植物誌改訂に向けた活動紹介 II．日本植物分類学会第21回神奈川大会（ポスター発表）

②販売中の出版物（調整：清水隆寿）

現在販売中の当館編による出版物は以下の通り。　※完売のもの除く（令和4年3月31日現在）

書　　名	発 行 先	発行年	備　考
H26山と人　北アルプスと人とのかかわり	市立大町山岳博物館	平成26年	館内にて販売中
H27年度 企画展　北アルプス山麓の自然に蝶が舞う	〃	平成28年	
北アルプス登山史資料2 ―白馬岳周辺登山史―	〃	平成24年	〃
H24年度 企画展　大地はなぞだらけ	〃	平成24年	〃
R2博物学と登山	〃	令和2年	〃
R3北アルプス誕生と高山植物	〃	令和3年	〃

4　広報・宣伝（調整：藤田達也）

博物館の施設利用案内や各種催し案内、博物館の活動紹介や魅力紹介を広く周知することで、より多くの方々に博物館を知っていただき、興味・関心を持っていただいて博物館を利用していただくため、公式ウェブサイトを管理（更新・充実）し、翌年度の年間行事予定のチラシを印刷・配布した。

公式ウェブサイトや公式SNSの管理のほか、年間行事チラシ印刷・配布を通し、博物館の認知度・関心度を高め、利用者増を図りたい。これにより、市民や地域住民、登山者や観光旅行者等のだれもが、いつでも、どこでも気軽に利用していただける場所として広く親しまれる博物館づくりにつなげ、地域における博物館の存在価値を一層高めていきたい。

ただし、広報・宣伝における効果的な情報発信の内容や手法等については今後検討し、常時見直していく必要がある。博物館全体の広報・宣伝（情報提供）体制を再確認し、より効果的な体制を構築することが急務。そのためにも、将来をみすえた博物館マネジメントを戦略的に進めることが重要。そのために、まずは現状を把握するため、観光施設としての面に重点を置いた市場調査の実施を検討することも一案と考える。

(1) 公式ウェブサイト管理（担当：藤田達也）

インターネット媒体として、公式ウェブサイト上の掲載情報について企画展等の開催等にあわせて随時更新を行った。　URL：https://www.omachi-sanpaku.com

なお、公式ウェブサイト以外にも、大町市や安曇野アートラインの公式ウェブサイトにおいて、各担当が必要に応じて情報発信を随時行った。

(2) SNSを用いた情報発信（担当：藤田達也）

近年SNSを用いた情報発信が企業などでも行われており、大町市でも文化会館や市民活動サポートセンターで運用が始まっている。当館では2019年5月から始めているFacebookページの運用に加えて、twitter、instagramを2020年5月から開始した。

主にイベント情報の告知、収蔵品の紹介、館周辺環境に関する内容についての情報を発信した。より効果的な発信頻度や内容については随時検討を続ける。

SNSの種類	開始年月	フォロアー（昨年対比）	年間更新回数（昨年対比）	プレビュー数（昨年対比）
Facebook（博物館）	2019年5月	188 (142%)	44 (91%)	13,505 (224%)
Twitter（博物館）	2020年5月	695 (655%)	72 (300%)	345,033 (1,065%)
Twitter（付属園）	2020年5月	3,024 (6,434%)	105 (1,312%)	12,250,063 (487,800%)
Instagram（付属園）	2020年5月	720 (247%)	57 (211%)	―

※2022年3月末日時点

(3) 年間行事チラシ印刷・配布（担当：藤田達也）

紙媒体として、博物館における翌年度の年間行事予定の情報等を掲載するチラシを印刷（15,000部、A4判ヨコ両面カラー3折）した。また、当該年度に入り、前年度に印刷した年間行事チラシを大北管内の小中学校の全児童生徒を含め、県内外の関係各所に配布した。

なお、各催しの個別情報については、各担当から大町市の広報誌「広報おおまち」や子ども・親子向け情報誌「がったつうしん」（大町市子どもセンター編集・発行）によって市民や近隣地域住民向け、「情報提供書」によって市内・県内の各報道機関向けに情報発信を行ったほか、県内や全国の博物館関係誌や山岳関係誌等への情報発信を行うなどした。

(4) 観光施設としての各種照会等の対応（担当：藤田達也）

旅行案内雑誌等の観光施設を主とした記事掲載に関わる照会等について、情報提供や記事校正等の対応を随時行った。

5　大町博物館連絡会（担当：鈴木啓助・清水隆寿）

大町博物館連絡会は加盟館 11 館で構成。例年、会長は大町エネルギー博物館長、事務所（事務局）は当館が担っている。

当館では同連絡会加盟館（理事：館長、幹事〈事務局員〉：副館長）として理事会及び総会を準備・運営するとともに出席し、各種事業の企画立案・準備・実施に携わった。主な事業として、加盟館 11 館から会費（本年度より劇団四季 浅利慶太記念館が正会員となる）、日帰り温泉施設 9 施設から掲載協力金、大町市観光協会から印刷負担金を収納して「おおまち博物館めぐり案内図（2022 年版）」4 万 2500 部を印刷作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所等に配布したほか、大町市観光課・観光協会を通じて県外での観光 PR イベントや旅行業者・旅行業代理店業者向けの商談会などに提供し、誘客を図った。また、7 年目となった「おおまち博物館めぐりスタンプラリー」を 4 月 1 日から 11 月 30 日まで計画をしたが、実際には新型コロナウイルス感染症拡大防止ということで加盟館の休館が相次いた。この取り組みは、各館への周遊誘客につなげることで大町市を“博物館のまち”として周知する方策として一定の成果があり、感染症収束後は、スタンプラリー参加者からも一定の評価を得ていることから今後も継続していく方針である。

なお本年度の連絡会総会及び理事会は、令和 3 年 6 月 7 日に山岳博物館講堂で開催、事業報告、会計監査報告、来年度事業計画及び予算などが開催された。

6　安曇野アートライン推進協議会 美術館･博物館部会（担当:鈴木啓助･清水隆寿）

安曇野アートライン推進協議会は、安曇野周辺の美術館・博物館等 19 館で構成。本年度、会長は白馬村長、事務局は白馬村教育委員会が担い（任期 2 年の 1 年目）、同協議会の実働を担う美術館・博物館部会の代表館は、大町山岳博物館が務めた（本年度から代表館は 2 年任期）。

当館では同協議会加盟館（幹事：館長、部会担当：副館長）として幹事会及び総会、部会会議（年間 6 回）に開催した。別記「第 16 回 安曇野アートライン展」（P7 参照）の各催しに参画した。しかし第 19 回 安曇野アートラインサマースクールについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐ観点から各館の対応となり中止を行った館もあった。また、アートラインマップやサマースクールチラシの編集発行・配布にかかわる事務作業を実施した。

7　大町山岳博物館友の会（担当：藤田達也）

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかるとともに、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

(1) 組織

①役員

a. **会　長**　宮澤洋介
b. **副会長**　丸山優子
c. **運営部**　部長：川﨑 晃　副部長：宮田京子
　　部員：川﨑祐子（会計担当）、丸山卓哉（編集担当）、仙波美代子、若林みどり、西田 均、有川美保子
d. **事務局**　鈴木啓助、清水隆寿、千葉悟志、栗林勇人、藤田達也（主務）
e. **監　査**　宮田京子、園田弘美
f. **顧　問**　長沢正彦

②友の会会員 構成（令和 4 年 3 月 31 日 現在）

会員種別	会員数	会員種別	会員数	会員種別	会員数
ファミリー会員	53 家族（178 人）	個人会員	53 人	学生会員	0 人
賛助会員	1 団体･1 人	終身会員	2 人	名誉会員	1 人
合 計	1 団体・235 人				

(2) 運営部

①運営部会　全 9 回開催（会場：山岳博物館　宿直室・講堂）

②行事（主催事業）

実施日	参加者	行事名・実施場所など
令和 3 年 4 月 18 日（日）	参加者数 36 名	大町山岳博物館友の会総会 博物館講堂　（担当：藤田達也）
令和 3 年 5 月 9 日（日）	募集人員 20 名 参加者数 18 名 参加率 95.5%	小鳥の声を聞く会 （講師：栗林勇太）
令和 3 年 7 月 22 日（木・祝）	募集人員 20 名 参加者数 20 名 参加率 100%	八方尾根を歩く （講師：千葉悟志）
令和 3 年 10 月 23 日（土）	募集人員 20 名 参加者数 17 名 参加率 90%	古道・善光寺道を歩く（Ⅰ） （講師：清水隆寿）

※参加者人数には、講師・スタッフを含む。

※冬の自然観察会　ゆきんこ 3（令和 4 年 2 月 5 日）は中止。

③協力

実施日	協力内容	行事名など
令和 3 年 4 月 18 日（日）	募集人員 50 名 参加者数 46 名 参加率 92%	山岳博物館友の会総会記念講演会 演題「大町市にみる岳・野・湖・山」 講師：矢野孝雄氏

(3) 広報・宣伝

①会報「ゆきつばき通信」

号数	発行日	主な内容
187 号	令和 3 年 5 月 16 日（日）	**（行事案内）** 八方尾根を歩く、特別展「さんぱく収蔵コレクション北アルプスに生きた動物の記録」 **（報告）** 友の会総会、友の会総会記念講演会、探鳥会 in 大峰、「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2021」、鳥帽子の会、ボランティアの会
188 号	令和 3 年 8 月 14 日（土）	**（行事案内）** 企画展「北アルプス誕生とそこに息づく高山植物のものがたり」、さんぱくゼミナール、河原の石ころを見に行こう、大町自然探検隊、大町山岳博物館創立 70 周年記念講演会 **（報告）** 八方尾根を歩く、鳥帽子の会、ボランティアの会
189 号	令和 3 年 11 月 21 日（日）	**（行事案内）** ゆきんこ 3、大町自然探検隊、大町山岳博物館創立 70 周年記念講演会、企画展「山の繪 －山岳風景画さんぱく収蔵コレクション－」、さんぱくこども冬期だいがく、山のサイエンスカフェ in さんぱく 2022 **（報告）** 善光寺道を歩いてみよう、鳥帽子の会、ボランティアの会
190 号	令和 4 年 2 月 20 日（日）	**（行事案内）** 友の会総会、総会記念講演会「高山のお花畑が教えてくれる生き物と生き物の繋がり」、山のサイエンスカフェ in さんぱく 2022、春の自然観察会 in 居谷里湿原 **（報告）** 大町山岳博物館創立 70 周年記念講演会、鳥帽子の会

(4) サークル活動

①烏帽子の会：30 名（令和 4 年 3 月 31 日 現在）

活　動　日	内　容	参加者
令和 3 年 5 月 22 日（日）	勉強会、南鷹狩山（大町市）総会	20 人
令和 3 年 7 月 18 日（日）	霧訪山（塩尻市）	16 人
令和 3 年 9 月 19 日（日）	御嶽山（木曽町）	中止
令和 3 年 11 月 3 日（水・祝）	越後八十八ヶ所めぐり（糸魚川市）	16 人
令和 3 年 12 月 5 日（日）	岩殿山（筑北村）	16 人
令和 4 年 2 月 11 日（金・祝）	黒川城址～伊折（小谷村）	中止
令和 4 年 3 月 26 日･27 日（土・日）	アーネストサトウの足跡を辿る「田沢温泉～池田」トレッキング	13 人

②ボランティアの会：25 名（令和 4 年 3 月 31 日 現在）

項目	活　動　日	内　　容	参加者
環境	4 月～11 月（延べ 8 回）	博物館・付属園・山岳図書資料館周辺の環境整備	78 名
封入	4 月～3 月（延べ 9 回）	「山と博物館」「ゆきつばき通信」その他関係資料等の配布物の封入作業	42 名
博物館事業	5 月 1 日～5 日	付属園まつりにおける受付、ライチョウ舎ガイド、館内ガイド、野外活動補助等	30 名
	6 月 7 日、7 月 12 日	企画展回収及び収蔵庫整備	15 名
	11 月 28 日	博物館創立 70 周年記念式典（受付、会場整備他）	10 名
研修	10 月 17 日	太田専門員から 2 階、地質関係展示コーナーに関する講義を受ける。	12 名

③花めぐり紀行：13 名（令和 4 年 3 月 31 日 現在）

活動日	内　容	参加者
令和 3 年 4 月～令和 3 年 11 月	植物さく葉標本づくり	延べ 7 名
令和 3 年 5 月～令和 3 年 10 月	高山植物の植え替え	延べ 29 人
令和 3 年 7 月 22 日（火）	高山植物のものがたり　八方尾根を歩く	18 人

④　山岳文化研究会：7 名（令和 4 年 3 月 31 日 現在）

活動日	内容	参加者
令和 3 年 6 月 7 日	役員のみ打合せを行い、本年度の取り組みと来年度の事業計画を作成	研究会役員のみ

8　ライチョウ会議（担当：鈴木啓助・栗林勇太・藤田達也）

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学 中村浩志特任教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。構成員の運営によって年 1～2 回程度会議を開催しているが、事務局として当館では、会議開催の調整・通知、会議資料作成などの事務を行っている。

(2) 第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会

ライチョウ会議大会は、大会開催地の関係者を中心に実行委員会を組織して１～２年に１回開催している。事務局として、当館では大会実行委員長ならび実行委員会事務局と連携して、名義後援依頼や報告書作成などの事務を行っている。この大会では、各分野の研究者・行政等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と、現状を把握し具体的な保護活動に結びつけるための意見交換などを行い、連携を強めるとともに、ライチョウについての知識の普及・啓発を行っている。そして、ライチョウをはじめとした野生動植物の生息環境を含めた保護と、人との共存の道を探ることにつなげるために毎年開催されている。

本年度は、第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会の開催が決定した。当館は実行委員兼事務局として携わり、実行委員会の開催調整などを行った。

10月15～18日にかけて、下記の内容で実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、来年度に延期となった。

〇予定していた内容

10月16日：公開シンポジウム（会場：駒ヶ根市文化ホール）

10月17日：専門家会議（会場：駒ヶ根市文化ホール）

10月15・18日：エクスカーション（会場：中央アルプス駒ヶ岳周辺）

9　長野県山岳総合センターとの連携事業（調整：清水隆寿）

令和3年度は、以下の事業を連携して実施することとした。

(1) すごいぞ！信州の山シリーズ　「ホネホネパズル講座」（担当：藤田達也）

a. 主　催：長野県山岳総合センター
b. 協　力：市立大町山岳博物館
c. 開催日：令和3年5月15日（土）
d. 場　所：市立大町山岳博物館 講堂
e. 参加者：小学生とその保護者　募集人員20人　参加者14名（大人4人、子供10人）
f. 概　要：生き物の体の構造を学ぶことを目的として、バラバラのニホンジカの全身骨格標本を参加者がヒントをもとに組み立ててもらった。また、自宅でもできる骨格標本づくりの講座も行い、骨の重要性を学んでいただく機会とした。

(2) わくわくチャレンジ教室「夏休み！たかがり自然探検隊」（担当：栗林勇太・太田勝一）

a. 主　催：長野県山岳総合センター
b. 協　力：市立大町山岳博物館
c. 開催日：令和3年7月28日（水）～29日（木）
d. 場　所：長野県山岳総合センター、市立大町山岳博物館　講堂
e. 参加者：定員小学生15人
f. 概　要:新型コロナ感染症拡大防止のために、宿泊は行わなくなった。28日は付属園の動物観察、缶バッジ作り、夜の博物館見学を実施し、29日は鷹狩山登山を行い地質の解説を行った。

(3) わくわくチャレンジ教室「冬休み！めざせ雪博士」（担当：鈴木啓助）

a. 主　催：長野県山岳総合センター
b. 協　力：市立大町山岳博物館
c. 開催日：令和4年1月8日（土）
d. 場　所：大町公園
e. 参加者：定員20名　申込み人数小学生12人
f. 概　要：新型コロナ感染症拡大防止のために中止。

Ⅳ　山岳博物館 創立 70 周年事業

市立大町山岳博物館は､昭和 26 年 11 月 1 日開館し､今年で創立 70 周年を迎えることができました。これを記念し、これまで関係者の皆様にご臨席を賜り、70 周年記念式典並びに記念講演会を下記の通り開催した。

1　記念式典

（1）**経　過**：年度当初、10 月 9 日に記念講演会を、11 月 20 日に記念式典の開催を企画した。これまでの記念式典の際には、大町市と友好都市となっているオーストリア・インスブルック市と同市のアルペン動物園の関係者を招待していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための入国制限などがあり、招待することができず、全体の規模を縮小して、下記の通り開催した。

（2）**日　時**：令和 3 年 11 月 28 日（日）　午後 1 時 30 分～午後 4 時

（3）**会　場**：大町市文化会館　大ホール

（4）**主　催**：大町市・大町市教育委員会（主管：大町山岳博物館）
　　共　催：長野県山岳協会

（5）**来　賓**：長野県議会議員、市会議員、市内各小中学校校長ほか一般参加者を含め約 250 人
　　（案内通知約 300 名）

（6）**日　程**：総合司会　大町市有線放送アナウンサー
　　オープニングイベント〔エベレスト登頂記録の上映〕
　　記念式典　・開式のことば〔荒井教育長〕
　　・主催者あいさつ〔牛越市長〕
　　・山岳博物館の 70 年の歩みの紹介〔鈴木館長〕
　　・来賓祝辞〔県議会議員、市議会議長〕
　　・祝電披露〔インスブルック祝電　モラス彩子〕

2　記念講演会

第 1 部の記念式典に引き続き、第 2 部として記念講演会が行われた。

（1）**記念講演会（対談形式）**

①演　者：平林克敏（信濃大町観光大使、元日本山岳会副会長、1970 年日本山岳会エヴェレスト登山隊）、神崎忠男（元日本山岳協会会長　東京都出身、1970 年日本山岳会エヴェレスト登山隊）

②演　題：「エベレストが教えてくれたこと　－仕事と山と人と－」

③内　容：平林氏は、1970 年の日本山岳会エベレスト登山隊に参加され、松浦輝夫氏、植村直己氏とともに日本人初となる世界最高峰への登頂を達成された。その時の状況を説明いただくとともに、エヴェレスト隊が成功した要因について、チームワークや偵察の重要性、そこでの経験がその後の人生において大いに役立ったことなどについて、神崎氏との対談形式で講演していただいた。

3　その他

本年度、山岳博物館が創立 70 周年を迎えるにあたり、様々な事業を展開したが、企画展などの記念事業はそれぞれの項で報告し、ここでは創立 70 周年に合わせて制作したものを記す。

（1）創立 70 周年記念冊子「山岳博物館 70 年の歩み」（作成 500 部）
　　創立 70 周年記念絵葉書

Ⅴ　動植物飼育栽培繁殖事業

1　動物飼育繁殖（担当：栗林勇太・藤田達也・遠藤モナミ・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やし、研究をしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見ていただくという考え方を大切にし、以下の基本方針を定めている（平成24年度策定）。

○生体展示･･･生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
○教育普及への活用･･･飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
○傷病鳥獣の救護･･･傷ついたり病気になったりした野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
○希少種の保護･･･希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
○施設整備の充実･･･付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業に関わり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではニホンカモシカとライチョウを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

飼育動物（令和4年3月31日現在）　（単位：個体）

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	1	2		3	トビ			8(8)	8(8)
ハクビシン	1(1)	1(1)		2(2)	フクロウ			1(1)	1(1)
					チョウゲンボウ	1(1)			1(1)
					キジバト			2(2)	2(2)
					アオクビアヒル	1(1)			1(1)
					スバールバルライチョウ	1	1		2
					ライチョウ	4	5		9
計	2(1)	3(1)		5(2)	計	7(2)	6	11(11)	24(13)

・哺乳類　2（1）種・5（2）個体
・鳥類　　7（5）種・24（13）個体　　合計　9（6）種・29（15）個体
※括弧内の数は救護動物の種数・個体数

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。平成28年度よりライチョウの飼育を再開し、同年に乗鞍岳で採卵した卵の孵化と育雛に取り組んでおり、令和3年度においてもライチョウの繁殖に取り組んでいる。

ニホンカモシカについては、当館で飼育中の個体の繁殖は行っていないが、埼玉県こども動物自然公園に貸し出し中のオスが繁殖に成功した。また、埼玉県こども動物自然公園に貸し出し中のオス個体を、横浜市金沢動物園に移動させた。

①ニホンカモシカ

a. 出生・導入個体

埼玉県こども動物自然公園にブリーディングローンとして貸し出し中の個体（オス・愛称クロベ、平成21年～）について同園で令和2年に繁殖の取り組みがなされ、同年6月19日に第4仔が産まれた。令和3年8月に同園と協議の上、産まれた個体を埼玉県の帰属とすることが決定した。

b. 死亡個体

なし。

c. 転出個体

ブリーディングローンとして、付属園内で繁殖したニホンカモシカ（オス・愛称クロベ、平成 21 年～）を埼玉県こども動物自然公園に貸し出しをしていたが、埼玉県で今後の繁殖の予定がないことに合わせ、横浜市金沢動物園で繁殖の意向があったことから、計画管理者の意向を踏まえ、令和３年 8 月に、埼玉県との契約を解除し、11 月 1 日付で、横浜市の公益財団法人横浜市緑の協会と飼育動物貸借契約書を結び、同月に埼玉県こども動物自然公園から横浜市金沢動物園にクロベを移動させた。また埼玉県こども動物自然公園で繁殖したクロベの第 2 仔を長野市茶臼山動物園（メス・愛称モモ、令和元年～）に各 1 頭貸出し中。第 3 仔については、現在も埼玉県こども動物自然公園にて飼養している。

d. 今後の計画

飼育個体が老齢となっていることから、展示個体の維持と将来的な繁殖を視野にいれ、埼玉県こども動物自然公園で飼養中のオスを当館で引き取ることを予定している。

②ライチョウ

a. 概要

年度当初飼育していた 6 羽について、1 つがいを形成し、生息域外保全に資するための飼育繁殖技術向上の観点から繁殖に取り組んだ。、本年度は自然繁殖（自然抱卵・自然育雛）を試み、平成 10 年以来 23 年ぶりとなる自然繁殖に成功した。また長野市茶臼山動物園から、成鳥 2 羽の受け入れを行った。令和 4 年 3 月 31 日現在、オス 4 羽・メス 5 羽の計 9 羽を飼育している。

b. 繁殖

本年度も引き続き 1 つがいの繁殖に取り組んだ。今年は、メスに受精卵を抱卵させて孵化・育雛を行わせる自然繁殖（自然抱卵・自然育雛）に取り組んだ。つがいのメス（以下、産卵メス）から得られた受精卵は、採卵して一時的に孵卵器で孵卵を開始し、産卵メスの抱卵が安定次第、産座に戻すことを予定していた。

孵卵器には４卵入卵した。しかし、産卵メスの抱卵が安定しなかったことや、他の非繁殖メスの抱卵が非常に安定していたことから、この非繁殖メス（以下、仮母）に托卵させることに決定した。托卵させた卵は、孵卵器に入れていた４卵のうちの１卵であった。残りの３卵は、孵卵中に検卵を実施したところ、発生が認められなかったため取り除いた。

仮母に托卵した結果、１羽の雛（メス）が誕生し、令和４年３月現在まで順調に生育し、平成 10 年以来 23 年ぶりの自然繁殖の成功となった。

c. 死亡個体

なし

d. 転出個体

なし

e. 転入個体

7 月 29 日に長野市茶臼山動物園より、オス１羽（昨年度、当館から生体移動させた個体）と、メス１羽（令和 2 年那須どうぶつ王国生まれ）の受け入れをした。

(2) 希少野生動物繁殖以外の飼育動物の増減

譲渡や受け入れ、死亡等により下記の動物の増減があった。

月・日	種　名	雌雄	記号・愛称	事　由
令和 3 年 4 月 5 日	ハクビシン	雄	ブー	死亡

(3) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣救護については、昭和 28 年頃の付属園併設以降、野生動物の保護や近隣住民への教育的配慮の観点から独自に行ってきたが、平成 9 年度からは長野県の指導を受けて行うようになり、平成 17 年度からは長野県の野生傷病鳥獣救護事業委託の受託によって行っており、現在、大北地域における野生傷病鳥獣救護施設としてケガや病気の野生動物を収容している。

しかし、近年のライチョウの飼育再開に伴い、防疫上の観点や関係法令等に基づいた適切な対応を

考慮し、平成 27 年度以降、傷病鳥獣の新規受け入れを行っていない。なお、平成 26 年度までに収容された傷病鳥獣については引き続き保護・飼養を行い、救護事業への寄与を継続して行っている。

2　植物栽培繁殖（担当：千葉悟志）

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

増：なし

減：イヤリトリカブト

②栽培植物

アズミノヘラオモダカ（長野県絶滅危惧ⅠA 類）、トガクシソウ（長野県絶滅危惧ⅠA 類）、ビッチュウフウロ（長野県絶滅危惧ⅠB 類）、サクラソウ（長野県絶滅危惧Ⅱ類、長野県希少野生植物指定種）、トキソウ（絶滅危惧Ⅱ類）、ササユリ（長野県準絶滅危惧・長野県指定希少野生植物指定種）、カキツバタ（長野県準絶滅危惧）、フクジュソウ（長野県準絶滅危惧）、コオニユリ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、モウセンゴケ、コマクサ、ズダヤクシュ、オヤマリンドウ、ハクサンフウロ、ミヤマセンキュウ、クロトウヒレン、ヤマガラシ、ウスユキソウ、ミヤマトウキ、ミヤマオトコヨモギ、ミヤマダイコンソウ、ヤマブキショウマ、コケモモ、ミヤマコウゾリナ、クロユリ、ガンコウラン、クロマメノキ、ハクサンコザクラ、ハクサンボウフウ、チングルマ、タカネナナカマド、クロウスゴ、ベニバナイチゴ、ミツバオウレン、ウラジロナナカマド、ホンドミヤマネズ、オンタデ、イワギキョウ、イブキトラノオ、タカネマツムシソウ、ハクサンタイゲキ、カライトソウ、イワオウギ、ミヤマクワガタ、ミソガワソウ、ミヤマセンキュウ、ゼンテイカ、タテヤマウツボグサ、ゴゼンタチバナ、エゾスグリ、コメススキ、ハクサンシャクナゲ、ハイマツ、ヤマブキショウマ、シナノオトギリ、アキギリ、キバナノコマノツメ、アラシグサ、クロクモソウ、イワベンケイ、ウサギギク、チョウジギク、ハクサンオミナエシ、ユキワリソウ、カニコウモリ、ヒメクワガタ、ノコンギク、ノハナショウブ、イワツメクサ、シコタンハコベ

a. 栽培の状況

試行錯誤をしながら夏場は水はけに注意するとともに建物の日陰を利用することで、ある程度の高山植物の育苗が可能であることがわかった。今後も種数を増やしながら付属園において来館者が観察できる環境を整えていきたい。

3　付属園整備（担当：千葉悟志・栗林勇太・藤田達也）

(1) 付属園整備構想の計画見直しについて

①経過と方針

博物館付属園整備構想及び計画については、平成 25 年度に一度作成しているところであるが、その後に行われたライチョウ舎の増設工事との整合性を図るため、ライチョウ舎以外の整備計画作成に着手すべく、平成 30 年度において大町市教育委員会、大町市社会教育委員会、市立大町山岳博物館協議会、大町山岳博物館友の会（役員対象）に意見聴取をさせていただき、この結果を踏まえて館内において協議を重ねてきた。

現行構想においては「市民に愛される付属園」とされ、付属園が今日まで市民や観光客に親しまれてきた経過を考慮すると、整備構想の見直しに際し、ライチョウとカモシカ以外の動物の飼育も視野に、どの程度の動物飼育（種類・飼育数）が当館の施設規模や組織体制に即して適正であるのか、さらには財政的に投資に見合う施設整備か等、時間をかけて慎重に協議を進めていくこととなった。令和 2 年度は、具体的な博物館付属園整備構想（案）を作製し、経費等についても概算であるが算出したところである。これをもって令和 2 年度はコロナウイルス感染拡大防止のために開催が出来なかった博物館協議会等を来年度開催し、修正を図りながら、実施計画の作成を進めていきたい。

②構想を実現化していく上での主な課題点

・カモシカの飼育繁殖のための施設形態と適正規模を検討。

・導入動物の種類選定にあたって、飼育や繁殖計画の策定、施設規模や施設内容等について（動物エンリッチメントへの配慮、繁殖の可否、入手方法、業務量の検討）。

・イヌワシ舎については、撤去の方針で検討を進める。
・コレクションプランについての調査研究と導入。
・予算規模（投資規模や年間のランニングコスト）とスタッフ体制の検討。
・付属園設置要綱等が未整備なため、整備構想・見直しの基盤が定まらない状況（付属園設置要綱を構想・計画の見直しに合わせ策定）。
・ライチョウ、カモシカを主体とした施設規模等に応じた飼育可能な導入動物の適正な飼育繁殖方法等の検討。
・新たな付属園構想には高山植物や岩石・鉱物の展示、学習や滞留空間、憩いの場の創出のための検討を行っているが、更に具体案の検討を進める。

以上、主だった課題点を列挙したが、これらの課題解決を図りながら、実施計画の策定を行う。

4　公益社団法人日本動物園水族館協会（担当：藤田達也）

公益社団法人日本動物園水族館協会（略称：日動水、JAZA）は、国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するためにできた国内の動物園や水族館の組織。日本全体の視野に立って、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という 4 つの目的を中心に、単独の園館ではできないことを協力して行っており、当館では付属園で動物を飼育していることから、同協会へ加盟している。

前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により本年度も会議等が中止となり、意見書および委任状での対応を行った。

Ⅵ　その他

1　各種委員等の委嘱他

ライチョウ会議 事務局（鈴木啓助、栗林勇太）
第 20 回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会 実行委員会（栗林勇太）
日本動物園水族館協会生物多様性委員会 ライチョウ専門技術員（栗林勇太）
全国山岳博物館等連絡会議［主催：公益社団法人日本山岳会］（清水隆寿）
長野県博物館協議会 監査（鈴木啓助）
信州大学・大町市連携協議会 委員（鈴木啓助）
高山植物等保護対策協議会 中信地区会員（鈴木啓助）
安曇野アートライン推進協議会 幹事（鈴木啓助）／同協議会 美術館・博物館部会（清水隆寿）
大北地区野生鳥獣保護管理対策協議会 委員（鈴木啓助）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会 参与（鈴木啓助）
長野県科学振興会大町支部 理事（千葉悟志）
大町桜まつり実行委員会 委員（鈴木啓助）
針ノ木岳慎太郎祭実行委員会 副大会長（鈴木啓助）
大町博物館連絡会 理事（鈴木啓助） 幹事（清水隆寿）
大町博物館連絡会 代表 大町市青少年育成協議会 理事（清水隆寿）
北アルプス雪形まつり実行委員会 実行委員（清水隆寿）

2　アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）平成 27 年 4 月 8 日、友好提携 30 周年を記念し、友好提携再締結をした。

3　信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

4　長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成 26 年 3 月 25 日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。

「長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

なお連携協定の有効期間は、締結日から 5 年間と定められていることから、あらためて、相互に協定書を交わし、平成 31 年 4 月 1 日に再締結を行った。有効期間は、令和 6 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

5　ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結

平成 27 年 6 月 18 日、公益財団法人富山市ファミリーパーク公社と当館は、次のような目的による連携に関する協定について締結をした。

「ニホンライチョウは国の特別天然記念物にも指定されている日本を代表する鳥類であるが、近年は絶滅が危惧され、国の保護増殖事業計画種にも指定されている。両園館は互いに隣接する、ニホンライチョウの生息県に所在する園館として、ニホンライチョウの保護増殖を目的に、ライチョウ類の飼育繁殖技術の連携に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

6　梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力

平成 22 年（2010）5 月、「梅棹忠夫　山と探検文学賞」委員会のもと創設され、創設時より山岳博物館は協力という形で支援をしております。選考委員会委員長・小山修三（国立民族学博物館名誉教授）氏のもと、令和 4 年 7 月 7 日に受賞式が信濃毎日新聞社において実施された。

以下、これまでの受賞作品です。

第 1 回（2012）　角幡唯介「空白の五マイル」（集英社）
第 2 回（2013）　中村保　「最後の辺境　チベットのアルプス」（山と渓谷社）
第 3 回（2014）　高野秀行「謎の独立国家　ソマリランド」（本の雑誌社）
第 4 回（2015）　中村哲　「天、共に在り　アフガニスタン三十年の闘い」（ＮＨＫ出版）
第 5 回（2016）　服部文祥「ツンドラ・サバイバル」（みすず書房）
第 6 回（2017）　中村逸郎「シベリア最深紀行」（岩波書店）
第 7 回（2018）　大竹英洋「そして、ぼくは旅にでた。はじまりの森ノースウッズ」（あすなろ書房）
第 8 回（2019）　佐藤優　「十五の夏」（幻冬舎）
第 9 回（2020）　萩田泰永「考える脚」（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）
第 10 回（2021）　小野和子「あいたくて　ききたくて　旅にでる」（ＰＵＭＰＱＵＡＫＥＳ）

Ⅶ　運営

1　組織および職員構成

(1) 組織

大町市教育委員会
- 教育長 ― 教育次長 ― 館長 ― 副館長
  - 顧問
  - 協議会
  - 副館長 ― 庶務
    - 学芸員
    - 獣医師(嘱託員)
    - 専門員・指導員・事務員兼資料整理員・動物飼育員（会計年度任用職員）

(2) 顧問

小坂共栄（平成 28 年 3 月 1 日～）

(3) 協議会委員

学校教育および社会教育の関係者：山岸澄雄、宮澤洋介
家庭教育の向上に資する活動を行う者：柳澤英幸、赤坂隆宏
学識経験のある者：岡田忠興、村越直美、佐藤悟、堀田昌伸、菊原昭一、須田哲、丸山祥子
公募による市民等：大日方三郎

(4) 職員

①配置

館　　長　　鈴木啓助
副 館 長　　清水隆寿（人文科学系学芸担当兼庶務）
学 芸 員　　千葉悟志（自然科学系植物担当）、関悟志（人文科学系担当）、
　　栗林勇太（自然科学系動物担当）、藤田達也（自然科学系動物担当）
事 務 員　　下坂昌幸（庶務）
専 門 員※　太田勝一（自然科学系地質担当）
獣 医 師　　横沢豊（令和 2 年 3 月 1 日～ 非常勤）
事務員兼資料整理員※　家城良好・降籏秀子
動物飼育員※　遠藤モナミ・小里玲奈・唐澤沙波・辰己萌恵　　※会計年度任用職員

②人事異動

転　　入　事 務 員　江津文人（令和 2 年度 大町市役所正規職員退職　令和 3 年 4 月 1 日 新規採用）
転　　出　学 芸 員　関悟志（令和 3 年 3 月 31 日）

2　市立大町山岳博物館協議会

協議委員任期：平成 31 年度は任期改選の年にあたり、以下のとおり協議委員を委嘱した。
　　平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日〔任期：2 年間〕
協議委員名簿：山岸澄雄（学校教育関係者）
　　宮澤洋介（社会教育関係者）　※協議会会長
　　柳澤英幸（家庭教育活動者）
　　赤坂隆宏（家庭教育活動者）
　　岡田忠興（学識経験者）　　※協議会副会長
　　村越直美（学識経験者）
　　佐藤　悟（学識経験者）
　　堀田昌伸（学識経験者）
　　菊原昭一（学識経験者）

須田　哲（学識経験者）
丸山祥子（学識経験者）
大日方三郎（公募市民）

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当該年度の協議会は中止とした。

3　入館者状況

(1) 過去の入館者状況

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生		
S26	291		100	21		77	489					489
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147					5,147
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092					13,092
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424					11,424
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885					10,885
31	2,148		888	1,036		858	4,930					4,930
32	1,934		658	826		1,880	5,298					5,298
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897					7,897
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113					7,113
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599					8,599
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163					10,163
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243					14,243
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893					15,893
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242					26,242
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560					25,560
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680					26,680
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900					25,900
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538					41,538
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967					32,967
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929					30,929
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326					39,326
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670					40,670
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373					58,373
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254					62,254
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692					67,692
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603					70,603
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700					54,700
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129					64,129
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943					63,943
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038					57,038
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132					65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509	86,678

62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709	80,744
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577	86,477
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413	73,824
年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生		
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429			1,429	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206	34,618
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655	28,399
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891	28,322
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317	21,551
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599	19,265
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675	23,363
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874	17,572
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325	18,515
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655	17,942
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147
23	12,376	127	855	2,963	328	1,396	18,045	2,023	146	819	2,988	21,033
24	9,827	114	640	2,335	498	587	14,001	1,294	94	783	2,171	16,172
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	919	162	409	1,490	12,162
26	12,249	120	892	3,146	655	370	17,432	2,450	422	615	3,487	20,919
27	10,427	101	795	2,729	444	610	15,106	2,350	214	572	3,136	18,242
28	9,774	98	709	2,442	433	540	13,996	2,008	127	759	2,894	16,890
29	10,210	77	735	3,084	230	1,176	15,512	2,477	217	486	3,180	18,692
30	10,795	79	840	2,895	245	826	15,680	2,878	117	422	3,417	19,097
R1	11,459	115	1,070	3,305	247	391	16,587	2,882	84	328	3,294	19,881
2	4,734	74	508	3,670	58	599	9,643	1,996	111	445	2,552	12,195
3	6,247	73	735	2,817	126	801	10,799	2,797	102	374	3,273	14,072
累計	1,372,333	20,444	199,185	621,911	86,794	286,737	2,587,404	118,563	3,510	11,609	133,682	2,721,086

(2) 令和３年度の入館者状況

月	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内			
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中高生		
4	571	1	34	161	2	8	777	175	10	19	204	981
5	698	7	91	307	1	45	1,149	369	14	37	420	1,569

6	371	4	21	161	113	91	761	186	6	132	324	1,085
7	825	5	111	333	1	202	1,477	477	9	17	503	1,980
8	1,286	31	297	623	7	91	2,335	515	17	6	538	2,873
9	433	1	27	247	1	16	725	185	5	6	196	921
10	859	18	60	371	1	181	1,490	418	5	33	456	1,946
11	725	2	33	362	0	141	1,263	297	18	121	436	1,699
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	479	4	61	252	0	26	822	175	18	3	196	1,018
計	6,247	73	735	2,817	126	801	10,799	2,797	102	374	3,273	14,072
前年	4,734	74	508	3,670	58	599	9,643	1,996	111	445	2,552	12,195
前年度比	132.0%	98.6%	144.7%	76.8%	217.2%	133.7%	112.0%	140.1%	91.9%	84.0%	128.3%	115.4%

(3) 令和3年度の開館日数

全229日

※通常であれば315日の開館予定であったところ、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、9月3日（金）～9月13日（月）と12月1日（水）～3月7日（日）の間、臨時休館の対応をとったため、開館日数が86日間減少することになった。

4　令和3年度予算・決算

(1) 歳入　（単位：円）

項　目	観覧料	県委託金 (傷病鳥獣救護)	寄附金	雑　入	合　計
当初予算額(A)	7,221,000	160,000	0	564,000	7,945,000
決 算 額(B)	4,268,380	134,000	120,739	635,657	5,158,776
比　較(B-A)	△2,952,620	△26,000	120,739	71,657	△2,786,224

(2) 歳出　（単位：円）

項　目	一般職員 人件費	管理運営 一般経費	教育普及 事業	調査研究 事業	資料収集 保管事業
当初予算額(A)	48,069,000	40,587,000	5,112,000	393,000	2,494,000
決 算 額(B)	36,343,369	35,269,080	4,035,600	258,466	2,232,100
比　較(B-A)	△11,725,631	△5,317,920	△1,076,400	△134,534	△261,900
項　目	動植物飼育 栽培事業	ライチョウ飼育 事業	付属園整備 事業		合　計
当初予算額(A)	6,812,000	8,962,000	645,000		113,074,000
決 算 額(B)	6,009,789	7,647,429	449,625		92,245,458
比　較(B-A)	△802,211	△1,314,571	△195,375		△20,828,542

5　ミュージアムカフェ・ショップ（担当：清水隆寿）

大町山岳博物館では、博物館を利用する来館者及び大町公園や東山へのトレッキングなどの利用者への利便性の向上を図ることを目的に、館内にミュージアムカフェ・ショップを設置し、飲食物の提供や商品の販売を行っている。運営にあたっては、事業者を公募し、委託営業を行っている。

平成 6 年 7 月 1 日から平成 25 年 11 月 4 日にかけては、大町山岳博物館友の会に運営を委託し、喫茶・売店「こまくさ」として営業を行っていただいていた。平成 26 年 4 月から新ためて運営業者を公募し、山内優氏によりミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」と店舗名を変更し運営にあたっていただき、以降 3 年間ごとあらためて新規公募を募り運営業者の選定を行い、委託契約を結び業務を実施していただいている。

(1) 令和 3 年度受託者

・氏　名：山内 優
・名　称：ミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」

(2) 契約期間

・令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日まで〔3 年間〕

(3) 令和 2 年度以降の運営体制について

・令和 2 年 3 月末をもってミュージアムカフェ・ショップ運営業者との契約期間が終了することから、令和元年度中に新たな運営業者の選定を行った。

選定にあたっては、企画提案方式（プレゼンテーション）とし、第一次審査は書類審査とし、第二次審査をプレゼンテーション審査と定め、令和 2 年 1 月号の大町市広報に応募要領を掲載して募集を行った。契約期間は令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日（3 年間まで更新可能・最長で令和 5 年 3 月 31 日まで継続可能）とした。

その結果、2 社からの応募があり、現地説明会の後、第一次書類審査及び第二次のプレゼンテーション審査を実施した結果、山内優氏「もるげんろーと」が、令和 2 年 2 月 10 日付で委託業者として採用が決定し、引き続き令和 2 年 4 月以降、ミュージアムカフェ・ショップの運営を行っていただくこととなった。

Ⅷ　関係条例規則等

1　市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号
改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号
平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号
平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号
平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号
平成 17 年 12 月 6 日条例第 80 号
平成 24 年 3 月 26 日条例第 3 号
平成 26 年 3 月 28 日条例第 8 号
平成 29 年 3 月 15 日条例第 7 号
令和元年 12 月 23 日条例第 32 号

市立大町山岳博物館条例(昭和 29 年条例第 18 号)の全部を改正する。

(目的)

第 1 条　この条例は、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という。)第 18 条及び地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

(名称及び位置)

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

(職員)

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

(観覧料)

第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 小学校就学の始期に達するまでの者
(2) 大町市立学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づく高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。以下同じ。)
(4) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

(観覧料の減免)

第 6 条　教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(資料の特別利用)

第 7 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(賠償責任)

第 8 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第 9 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

2　協議会の委員(以下「委員」という。)は 15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者
(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
(3) 学識経験のある者
(4) 公募による市民等
3　委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委任）
第10条　この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則
1　この条例は、昭和57年6月5日から施行する。
2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例(昭和29年条例第18号)第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。
附　則(昭和61年3月24日条例第8号)
　この条例は、昭和61年4月1日から施行する。
附　則(平成元年3月24日条例第7号)
　この条例は、平成元年4月1日から施行する。
附　則(平成4年3月31日条例第8号)
　この条例は、平成4年4月1日から施行する。
附　則(平成5年12月24日条例第32号)
　この条例は、平成6年4月1日から施行する。
附　則(平成12年3月29日条例第13号)
　この条例は、平成12年4月1日から施行する。
附　則(平成13年3月27日条例第13号)
　この条例は、平成13年4月1日から施行する。
附　則(平成17年12月6日条例第80号)
　この条例は、平成18年1月1日から施行する。
附　則(平成24年3月26日条例第3号)
　この条例は、平成24年4月1日から施行する。
附　則(平成26年3月28日条例第8号)
　この条例は、平成26年4月1日から施行する。
附　則(平成29年3月15日条例第7号抄)
　この条例は、平成29年4月1日から施行する。
附　則(令和元年12月23日条例第32号)
　この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

種 別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1人	450円
	高校生	〃	350円
	小人	〃	200円
団体 (30人以上の場合をいう)	大人	〃	400円
	高校生	〃	300円
	小人	〃	150円

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

2　市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号
改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号
平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）

第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。）の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という。）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く。）

（開館時間）

第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 管理上支障があると認められるとき。

(3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。

2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
（資料等の滅失・損傷）
第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
（協議会の組織）
第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各 1 名を置く。
2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
（協議会の会議）
第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。
2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則
1　この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。
2　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第 9 号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号）は、廃止する。
附　則（平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号）
この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号）
この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。
附　則（平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号）
この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

様式（省略）

3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
2　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
3　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
2　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
2　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則
　この告示は、告示の日から施行する。

Ⅸ　市立大町山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

1　市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粋たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

2　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る　きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人とが共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。

②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。

③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。

④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。

⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

①観光客・登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について、関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。

②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。

③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人とが共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。

③体制づくり

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

(2) 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

①収集・整理の推進

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。

②収集の範囲

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。

③保存・管理の推進

収集された資料は適正に管理された環境おいて保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

(3) 調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

①調査・研究の成果活用

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

②収集・保管の成果活用

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

③保護・保全への貢献

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

④体制づくり

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

(4) 教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすくて興味が持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

①生涯教育・社会教育の推進

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

②学社連携・融合の推進

学校と博物館を結んだ事業を積極的に行い、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっ

かけづくりをする。

③協働の推進

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

(5) 付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。

①生体展示

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

X　施設

1　敷地面積

41,575.69 ㎡（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 ㎡、民有地：3,082.54 ㎡

2　本館建物

(1) **構造**：鉄筋コンクリート造　地上３階 地下１階

(2) **竣工**：昭和 57 年５月 31 日竣工

(3) **面積**：建築面積 1,280.9 ㎡　延べ床面積 2,207.04 ㎡

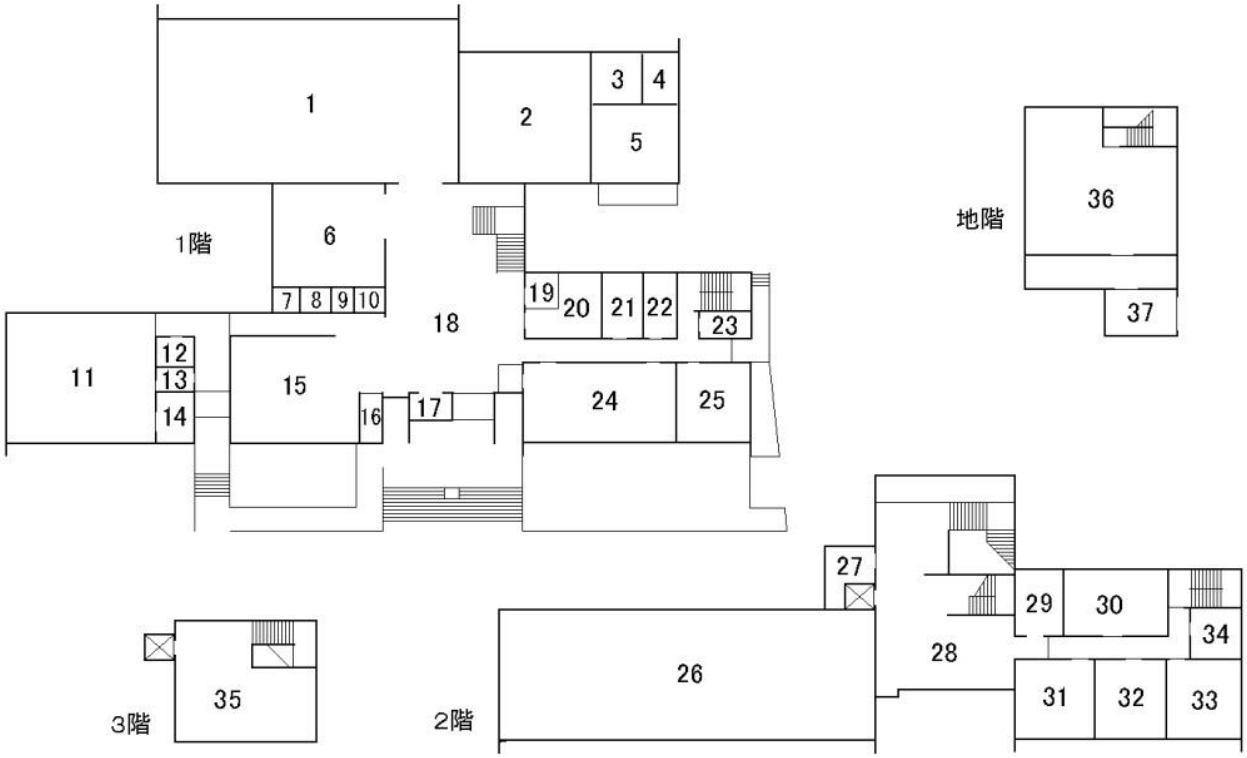
(4) **床面積表**　（単位：㎡）

1 階　1,244.9					
名　称		面積	名　称		面積
1	展示室	290.0	14	準備室	9.1
2	収蔵庫	104.0	15	ｶﾌｪ･ｼｮｯﾌﾟ	74.2
3	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	16.4	16	授乳室	6.7
4	燻蒸室	12.3	17	荷物置場	14.4
5	荷解作業室	41.3	18	ホール	116.9
6	特別展示室	70.4	19	多目的ﾄｲﾚ	6.5
7	EV 機械室	6.0	20	女子ﾄｲﾚ	22.5
8	倉　庫	3.5	21	書　庫	16.7
9	倉　庫	3.0	22	更衣室	14.6
10	E. V	5.1	23	倉　庫	8.8
11	講　堂	110.2	24	事務室	69.6
12	ﾄｲﾚ	8.1	25	休憩室	32.5
13	倉　庫	5.4	廊下、階段等		176.7

2 階　686.14					
名　称		面積	名　称		面積
26	展示室	290.0	31	研究室	34.8
27	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	14.9	32	資料庫	34.8
28	展示室	113.6	33	図書室	34.8
29	男子ﾄｲﾚ	18.2	34	資料庫	16.0
30	収蔵庫	42.1	廊下階段等		86.9

3 階　116.8				
名　称		面積	名　称	面積
35	展示室	94.6	階段	22.2

地階　159.2				
名　称		面積	名　称	面積
36	機械室	118.8	階段	17.4
37	車　庫	23.0		



3　付属施設

(1) 付属園（付属動植物園）　※本館隣

①施設の概要　　敷地面積：39,875.92 ㎡

②建物の概要（建設年度順）　※B-8・10 については放飼場の面積を除く

施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)		
B-1	CB 造	28.20(S38→S55 移設)	B-8	CB 造	26.92(H1)	A-10	木造	52.00(H21)
B-2	CB 造	14.79(S38→S55 移設)	B-9	CB 造	34.83(H3,4)	A-11	木造	42.00(H27)
B-3	CB 造	22.62(S53)	B-10	CB 造	5.20(H3)	A-12	木造	33.00(H27)
B-4	ﾊﾟﾈﾙ造	39.63(S54・55)	B-11	鉄骨造	67.65(H4)	A-13	木造	19.13(H27)
B-6	ﾊﾟﾈﾙ造	18.99(S60,61)	B-12	鉄骨造	86.44(H7)	A-14	木造	146.16(H29)
B-7	CB 造	46.50(S61)						

(2) 山岳図書資料館　※本館隣

①施設の概要

・構造・規模：鉄骨造　地上 2 階

・竣工・開館：平成 24 年 3 月 2 日竣工　平成 24 年 4 月 20 日開館

・各　面　積：敷地面積 498.21 ㎡　建築面積 59.96 ㎡
　　延床面積 117.45 ㎡（1 階 58.725 ㎡、2 階 58.725 ㎡）

・設備・備品：ハンドル式移動書架 18 基　固定式書架（各種）29 基　ほか

4 エレベーター改修事業

本来令和 2 年度事業として予定していたが、随意契約で準備していたところ、業者選定員会において入札により施工業者を決めることとなり、工期の問題もあり翌年の令和 3 年度に施工を行うこととなった。本年度改めて一般競争入札により、施工業者が三菱電機ビルテクノサービス株式会社と決定。

これまでの三菱電機油圧式エレベーターからロープ式のものに変更された。

博物館本館のエレベーター改修事業〔工事期間：令和 3 年 12 月 1 日～令和 4 年 1 月 14 日〕にあたっては、コンクリート壁面ハツリ工事などのため、工事に伴う騒音があるため、この間は観覧者の皆さんにご迷惑、あるいは未然のトラブルを防ぐため博物館は臨時休館とした。

大町博物館本館エレベーター改修工事の工期として、令和 3 年 8 月 1 日～令和 4 年 2 月 18 日として実施された。実施にあたっては、令和 3 年度市町村合併特例交付金を利用。

総事業費は、19,140,000 円。なお工事完了日間際から、変異型の新型コロナウイルスによる感染者が急増したことから、3 月 7 日まで引き続き休館とした。

Ⅺ　利用案内（令和 4 年 3 月 31 日現在）

1　**開館時間**　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

2　**休館日**　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休

3　**交通**　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシー5 分、徒歩 25 分
車　長野自動車道安曇野 IC から 40 分
（北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）

4　**観覧料**

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	450 円	350 円	200 円
団　体（30 名様以上）	400 円	300 円	150 円

5　**ユニバーサルデザイン**
入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能

6　**所在地および連絡先**
〒398-0002 長野県大町市大町 8056－1
（標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL：https://www.omachi-sanpaku.com

市立大町山岳博物館　令和3年度 年報

2022(令和4)年7月30日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211 / FAX:0261-21-2133
印刷･製本　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL:0261-22-3030 / FAX:0261-23-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。